市町村名	北中城村

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-①	あやかりの杜交流体験事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3(2)-ウ 多彩かつ質の高い観光の推進
担当部課名	生涯学習課	事業実施（予定）年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)
事業内容	施設の特徴を活かした体験型による事業を展開することで、観光客誘客及び伝統文化等の継承を図る。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
	(b) 予算現額	5,091	5,000	5,000	5,000	5,000
	(c) 増減額 (b-a)	91	0	0	0	0
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	5,091	5,000	5,000	5,000	5,000
	B. 執行済額	5,091	5,000	4,843	4,997	5,000
	うち交付金充当額	4,073	3,999	3,874	3,997	3,999
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	96.9%	99.9%	100.0%

予算の状況の説明：計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
体験交流事業	目　標	（18事業）	（14事業）	（14事業）	（14事業）
	実　績	8事業	11事業	14事業	14事業
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：・地域団体や企業の協力もあり14事業を開催することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（年度）
体験交流人数	目　標	（　）	（580人）	（580人）	（432人）	（　）
	実　績		242人	508人	486人	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：・人気講座の回数を増やすことにより目標人数を達成した。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・参加者の年代別の割合としては、10代／55%、20代／1%、30代／6%、40代／13%、50代／10%、60代／10%、70代／5%　となり、前年度と同じく、他の年代に比べ、20代と30代の参加が少なかった。 ・新型コロナウイルス感染症及びインフルエンザ感染症の流行もあって、直前のキャンセルが少なからずあった。 ・前年度の反省点を踏まえ、人気講座の陶芸教室の回数を増やしたが、未だにキャンセル待ちが出るほど、反響があった。	・積極的にSNS（インスタグラムやFacebook）での発信や募集を行ったが、参加者の2%ほどの申し込み者数となった。20代、30代が特に好む内容の事業を考える必要がある。 ・キャンセル待ちの人数枠を増やし、補充要員の確保を行ったこともあり、参加者の補充に関しては、前年度よりスムーズに行えた。

今後の取り組み方針

・定員や講座の回数を受講者の申込人数に応じて柔軟に対応していく。
・観光協会や村ホームページを活用し周知していく。
・・村観光協会や地元飲食店等とのコラボ講座の推進に取り組む。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,000	5,000	3,999	1,001	0

北中城村 5,000千円 ― 委託料 5,000千円 ― 特定非営利活動法人 あやのふぁ 5,000千円 （あやかりの杜交流体験事業）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○地方自治法施行令第167条の2第1項2号に基づき随意契約を行った。 ○不用額が事業費の5%以内であることから、適正な規模であったと考える。 ○費用や使途については、精算時に検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-②	北中城まつり活性化事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ 多彩かつ質の高い観光の推進
担当部課名	企画振興課	事業実施（予定）年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容	北中城村まつり活性化委員会に対して「令和5年度北中城村青年エイサーまつり」、「第38回北中城まつり」の開催を支援し、観光誘客を図る。また本村の観光資源となりうる伝統芸能の担い手不足解消のため、伝統芸能プログラムを中心におこない、多くの方に魅力を発信することで伝統芸能の継承を図る。
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額	16,533	16,744	16,861	16,927	20,540
	(b) 予算現額	16,533	465	18,838	15,830	20,540
	(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 16,279	1,977	▲ 1,097	0
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	16,533	465	18,838	15,830	20,540
B. 執行済額		10324	463	10663	15,933	18,104
うち交付金充当額		8,259	370	8,530	12,746	14,483
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		62.4%	99.6%	56.6%	100.7%	88.1%

予算の状況の説明：「第38回北中城まつり」及び「令和5年度北中城村青年エイサーまつり」を開催し、計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。
不用額2,436千円はまつり運営にかかる委託料や消耗品費等経費が当初見込みを下回ったことによるもの。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
まつりの開催支援 青年エイサーまつり：R5年8月～10月開催	目　標	（　）	（開催支援）	（開催支援）	（開催支援）
	実　績		開催支援	開催支援	開催支援
まつりの開催支援 北中城まつり：R5年9月～11月開催	目　標	（　）	（開催支援）	（開催支援）	（開催支援）
	実　績		開催支援	開催支援	開催支援

達成状況説明：「第38回北中城まつり」及び「令和5年度北中城村青年エイサーまつり」を令和5年10月7日（土）と10月8日（日）に北中城村しおさい公苑をメイン会場として開催し、計画通り支援を実施できた。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（年度）
青年エイサーまつり来場者数	目　標	（　）	（7,400人）	（6,400人）	（6,600人）	（　）
	実　績		5,774人	21,826人	25,832人	
北中城まつり来場者数	目　標	（　）	（24,000人）	（24,000人）	（10,100人）	（　）
	実　績		9,164人	25,806人	13,480人	

進捗状況説明：・「第38回北中城まつり」及び「令和5年度北中城村青年エイサーまつり」を開催し、来場者数は北中城まつり、青年エイサーまつり共に目標値を達成することができた。

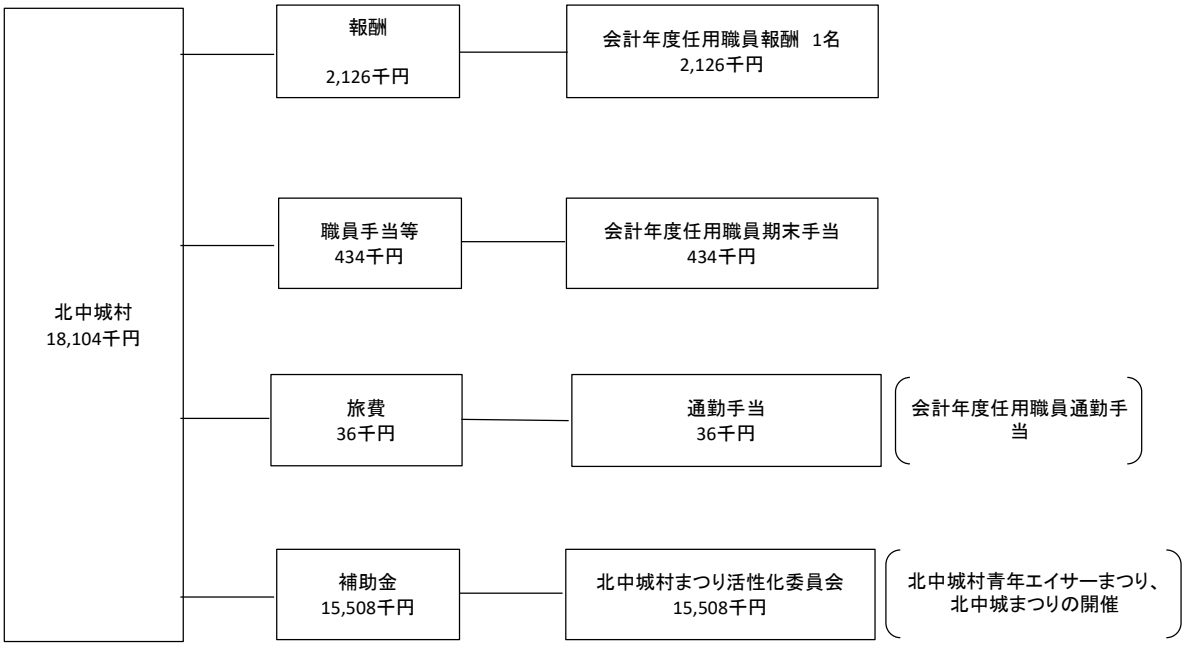
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	（令和5年度北中城村青年エイサーまつり） 令和4年度に来場者より日曜日開催の要望が多数あったため、ニーズの多かった日曜日に開催曜日を変更したことが、来場者数増化の要因と考えられる。 （第38回北中城まつり） 目標達成の要因のひとつに、シャトルバスを普通車から大型車に見直したことによるものと考えられる。 （全体） まつりのメインプログラムの時間帯に来場者が増える傾向にあり、会場と臨時駐車場間をむすぶシャトルバス運営において時間帯によっては来訪者の搭乗ができなかった便が多数あること、また終了後の帰宅者の便の運行に想定より時間がかかったこと課題となっている。	（全体） 来場者のピークとなる時間帯にシャトルバス運営をスムーズにおこなうことで、さらに来場者の増加を見込むことができる。また、まつり終了後の臨時駐車場への便の運用を見直し、最後まで安全安心なまつりの開催を目指す。

今後の取り組み方針

来場者が増加する時間帯からまつり終了にかけて大型観光バスの増便をおこない来場者数の増加の促進と安全安心のまつり開催を目指す。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
18,104	18,104	14,483	3,621	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助先のまつり活性化委員会は、村内各種団体で構成され、まつりを主催することから、妥当であったと判断する。 ○まつり総事業費の10%を同委員会で負担しており、補助要綱に則り妥当であったと判断する。 ○費目・使途については、精算時に検査を実施しており、目的に即し、必要であったと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-③	観光誘客プロモーション事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ 多彩かつ質の高い管区の推進
担当部課名	企画振興課	事業実施（予定）年度	平成26～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容	観光誘客を図るため、観光情報・案内等のサービスの提供、ウェブやSNS等ICTを活用したプロモーションの強化などコロナ禍でも情報発信を行えるDXの推進を図る。県外でのイベントの参加や独自イベントを開催し誘客を促す。来訪客の滞在型観光を目的に観光コンテンツの充実を図るため、観光ガイドの育成をおこなう。
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額	46,307	43,440	45,649	53,300	52,905
	(b) 予算現額	46,307	43,368	45,649	49,907	50,796
	(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 72	0	▲ 3,393	▲ 2,109
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	46,307	43,368	45,649	49,907	50,796
B. 執行済額		45,019	41,156	43,334	49,664	48,778
うち交付金充当額		36,015	32,924	34,667	39,731	39,022
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		97.2%	94.9%	94.9%	99.5%	96.0%

予算の状況の説明：会計年度任用職員の通勤手当が不要となったため、旅費を36千円減額、契約実績により委託料を2,030千円及び賃貸料43千円を減額した。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
観光イベントでのプロモーション	目　標	（国内：1回）	（国内：1回）	（国内：1回）	（国内：2回）
	実　績	国内：1回	国内：1回	国内：1回	国内：2回
インターネット上での観光案内の強化	目　標	（実施）	（実施）	（実施）	（実施）
	実　績	実施	実施	実施	実施
ビックデータ収集・分析による観光動向調査	目　標	（　）	（　）	（実施）	（実施）
	実　績			実施	実施
観光ガイドの育成、サービスの提供	目　標	（　）	（　）	（　）	（実施）
	実　績				実施

達成状況説明：
・（観光イベントでのプロモーション）大阪府で開催された「ツーリズムEXPOジャパン」及び東京都で開催された「沖縄リゾートウェディングフェア」に本村ブースを設け観光情報の発信を行った。
・（インターネット上での観光案内の強化）SNSでの観光情報の発信やホームページの情報を充実させた。
・（ビックデータ収集・分析による観光動向調査）村内9施設よりアンケート等によるデータ収集・分析を実施した。
・（観光ガイドの育成、サービスの提供）観光ガイドの育成講座を実施し、ポータルサイトにてページガイドの紹介をおこなった。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（年度）
PRブース来場者数	目　標	（　）	（1,700人）	（1,700人）	（2,803人）	（　）
	実　績		2,485人	2,236人	4,042人	
観光案内ページの閲覧数	目　標	（　）	（　）	（14,000人）	（17,056回/月）	（　）
	実　績			159,361人	22,371回/月	
ボランティアガイド育成	目　標	（　）	（　）	（　）	（20人）	（　）
	実　績				21人	

進捗状況説明：
・（PRブース来場者数）令和5年10月26日～29日に大阪府で開催された「ツーリズムEXPOジャパン」において、本村のブースを設けてプロモーションを実施し、目標値数以上の成果となった。
・（観光案内ページの閲覧数）ポータルサイトやSNS（Instagram、Youtube等）の情報の充実を図り、情報発信の強化を行うことで目標数値を上回る成果を出した。
・（ガイド育成）ガイド育成のため講座受講者を募集し、26名の応募者のうち21名が全講座を受講完了し目標数値を上回る結果となった。

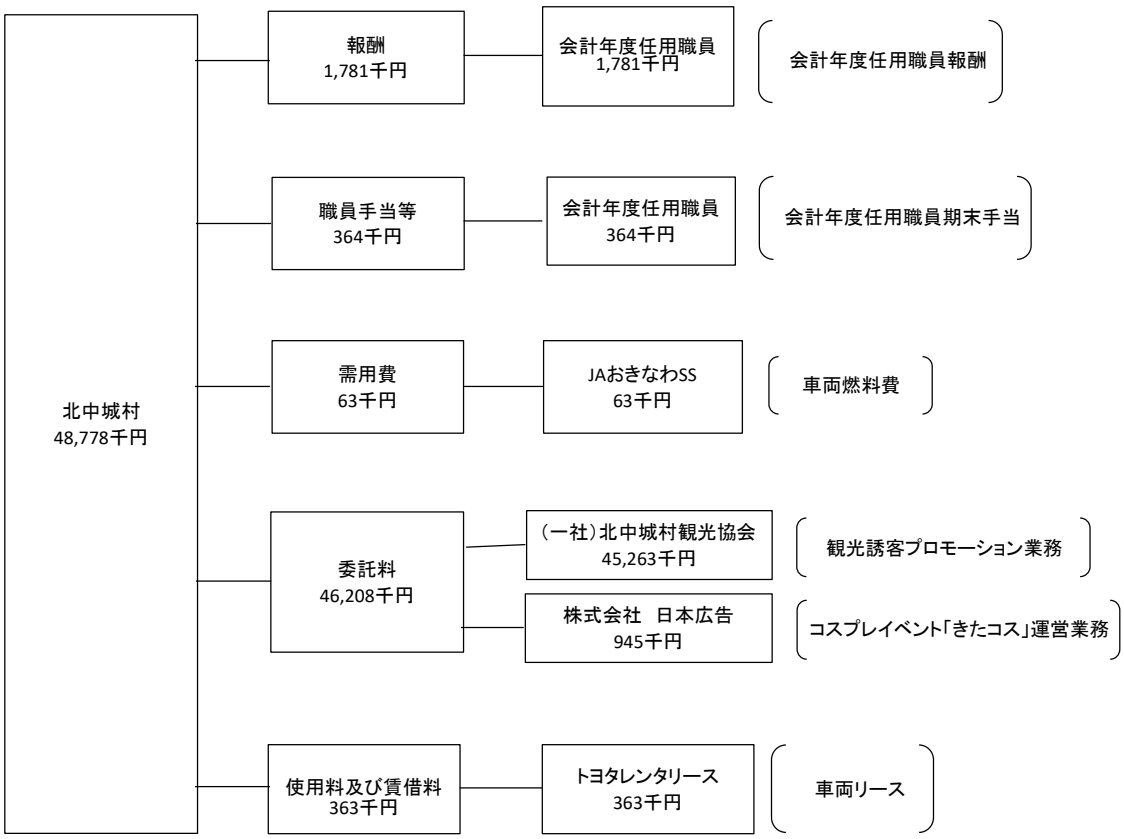
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	（PRブース来場者数） 観光冊子の配布、観光PR動画の放映、地域活性化キャラクターの活用を行うことで来場者に本村の観光コンテンツが紹介できるツールを多数準備できたことが目標達成の要因と考えられる。 （観光案内ページの閲覧数） 村内情報発信の強化のため、観光ポータルサイトの情報充実、村内観光施設のPR動画作成・配信、インフルエンサーを活用してSNS情報発信を行うことで目標を達成することができた。 （ガイド育成） 北中城村が有する文化財・史跡等の案内ができるガイドを育成するための講座や救急救命講習、マナー講習なども行い、質の高いガイドを目標数値以上育成した。	（PRブース来場者数） 本村の認知度向上の目的のPRを行ってきたが、村内滞在観光を促進するPRを行う。 （観光案内ページの閲覧数） 来訪者のニーズを満たした情報の発信に取り組む必要がある。 （ガイド育成） ガイドツアーのPRを行い、受入れを促進する必要がある。

今後の取り組み方針

（PRブース来場者数）
旅行会社や修学旅行ツアー会社等にPRができるイベントに参加し、体験商品をPRすることで村内滞在観光に直結するよう取り組む。
（観光案内ページの閲覧数）
村内の観光情報を盛り込んだWeb上のマップをポータルサイトに公開し、旅マエ・旅ナカの情報の充実を図る。
（ガイド育成）
イベント等に参加し、旅行者やツアー会社への情報共有・連携を行い観光客の誘客を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
48,778	48,778	39,022	9,756	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○契約先は地方自治法施行令第167条の2第1項2号に基づき随意契約を行っており妥当であったと判断する。 ○不用額が事業費の4%であることから、適正な規模であったと考える。 ○費目・使途については、精算時に検査を実施しており、目的に即し、必要であったと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-④	コミュニティバス実証事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(1)-ウ 人と環境に優しいまちづくりの推進
担当部課名	企画振興課	事業実施（予定）年度	平成30～令和6年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-11

事業内容	村内への観光誘客を図り、観光客をはじめとする交通弱者の利便性向上を図るため、コミュニティバスによる実証実験を行う。
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額	17,094	25,589	23,844	39,281	40,601
	(b) 予算現額	16,790	29,537	23,844	31,525	38,601
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 304	3,948	0	▲7,756	▲ 2,000
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	16,790	29,537	23,844	31,525	38,601
	B. 執行済額	16,235	29,112	24,964	30,147	36,270
	うち交付金充当額	12,987	23,289	19,971	24,118	29,016
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		96.7%	98.6%	104.7%	95.6%	94.0%

予算の状況の説明：・入札残に加え、当初、運行ルート拡充を12月頃予定していたが、ルート変更での運行開始が遅れたことにより実証実験業務を減額補正した。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
運行日数	目　標	（350日以上）	（350日以上）	（350日以上）	（350日以上）
	実　績	363日	365日	365日	363日以上
運行ルート	目　標	（3回）	（1回）	（2ルート）	（2ルート）
	実　績	2回	3回	2ルート	2ルート
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：
・台風の影響により3日間は臨時運休となったが、計画通り運行日数を達成することができた。
・過年度に実施した住民意見交換会での要望を踏まえ、村域内の公共交通空白地域（島袋小学区付近）及び石平地区、瑞慶覧地区へルートを拡充するため、令和6年3月25日よりルートを「喜舎場廻り・島袋廻り」から「東ルート・西ルート」へ運行ルートを変更した実証運行に取り組んだ。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（年度）
年間利用者数	目　標	（　）	（5,000人）	（5,500人）	（11,700人）	（　）
	実　績		6,986人	11,845人	18,841人	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：
・令和4年11月7日より運行ルートを2ルートに増やし、喜舎場廻り、島袋廻りのルートで実証運行を実施している。ルートを拡大したことや、利用者への周知等に努めることで認知度が徐々に高まったことで、年間利用者数は目標を達成することができた。

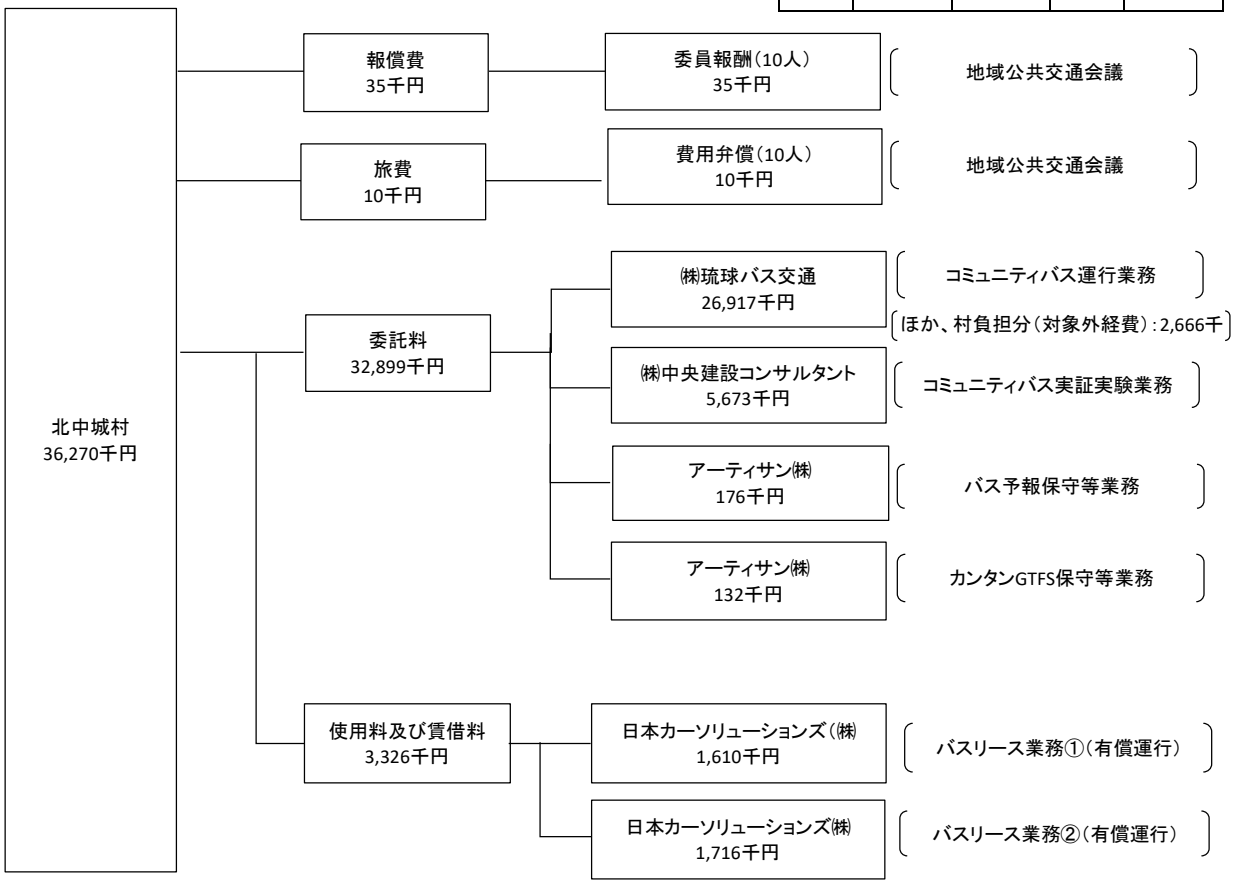
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・運行ルート拡充にあたり、村広報誌や村HPでの周知に加え、地域住民との意見交換や全世帯へのチラシ配布による周知強化に努めたことで、一般利用者（地域住民）の利用が増加傾向となったことが、目標達成の要因と考えられる。 ・新型コロナウイルス感染症が5類感染症とされたことを受け、県内への観光客が戻りつつあり、観光客の利用者も増加傾向にある。	・運行ルートが複雑でわかりにくい、バス停の位置の変更、追加の要望が地域住民より多く寄せられたことから令和6年3月25日に運行ルートを変更し、東西ルートでの実証運行を実施しており、今後は過年度までの運行ルートと新たな運行ルートの比較等によるニーズ分析を行う必要がある。 ・県内への観光客が戻りつつある中、観光客の利用促進についても推進する必要がある。

今後の取り組み方針

・運行ルート拡充による移動ニーズ調査を実施するとともに、これまでの実証運行の実績を踏まえた最適な運行ルートの検討を行う。
・関係機関及び企業等と連携したコミュニティバスの運行情報の発信に努め、観光客の利用促進を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
38,936	36,270	29,016	7,254	2,666



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○実証事業に係る委託業者は、指名競争入札の手続きを経て選定しており、妥当であったと考える。 ○不用額は、事業費の10%以内であり、適正な規模であったと考える。 ○バス運賃について、民間バス会社のバス運賃と同水準（一般：200円）の運賃設定としており、受益者であるバス利用者の負担についても適正であると考える。 ○費目及び使途については、事業完了時に検査を実施しており、目的に即し必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑤	ウェルネスツーリズム推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－3－（2）－（ウ） 多彩かつ質の高い観光の推進
担当部課名	企画振興課	事業実施（予定）年度	R4～R13	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）

事業内容

本村の女性平均寿命3期連続日本一という健康長寿ブランドを活かしたウェルネスプログラムの開発、ウェルネスツーリズムを推進することで、村のPRとともに観光誘客を図る。
また、村民についても、今後も健康長寿ブランドを維持することを目的に定期的なウェルネスワークショップを開催し、健康づくりの啓発を図りながら、健康長寿村の一員としての誇りを醸成する。

効果発現年度　■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法　■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額				8, 225	7, 446
	(b) 予算現額				5, 864	7, 446
	(c) 増減額 (b-a)				▲2,361	0
	(d) 繰越額				0	0
	A. 計 (b+d)				5,864	7,446
	B. 執行済額				5,794	7,294
	うち交付金充当額				4,634	5,835
次年度繰越額					0	0
執行率（%）(B/A)					98.8%	98.0%

予算の状況の説明：計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
ウェルネスイベントの開催	目　標	（　　）	（　　）	（2回）	（2回）
	実　績			2回	2回
ウェルネスワークショップの開催	目　標	（　　）	（　　）	（5回）	（5回）
	実　績			5回	5回
ウェルネスモニターツアー開発及び実施	目　標	（　　）	（　　）	（3回）	（－）
	実　績			3回	－
国際ウェルネスツーリズムEXPOへの出展	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（出展）
	実　績				出展

達成状況説明
・ウェルネスイベントについては前年度荒天による延期等があり参加人数の伸び悩みに繋がったことをうけ、今年度は2回のうち1回を屋内イベントを開催。当初のスケジュール通り2回実施が完了した。
・ワークショップはウェルネスツアープログラムを想定した内容で当初予定通り5回実施した。
・国際ウェルネスツーリズムEXPOで北中城村ブースを出展し、ツアープログラムの周知を実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（年度）
ウェルネスイベント総参加者数	目　標	（　　）	（　　）	（300人）	（200人）	（　　）
	実　績			176人	226人	
ウェルネスワークショップ参加者数	目　標	（　　）	（　　）	（75人）	（100人）	（　　）
	実　績			75人	129人	
国際ウェルネスツーリズムEXPOでの商談実績	目　標	（　　）	（　　）	（30人）	（5件）	（　　）
	実　績			24人	11件	

進捗状況説明
・ウェルネスイベントについては屋外イベント開催日が晴天に恵まれたため、目標を上回る226人の参加があった。
・ウェルネスワークショップは農業体験のニーズが高く、初回を除き各回定数を上回る参加申込があり129人の方々にご参加いただけた。
・昨今の旅行トレンドが体験商品となっていることで農業体験をウリにする本村のブースに訪れる事業者が増えた。

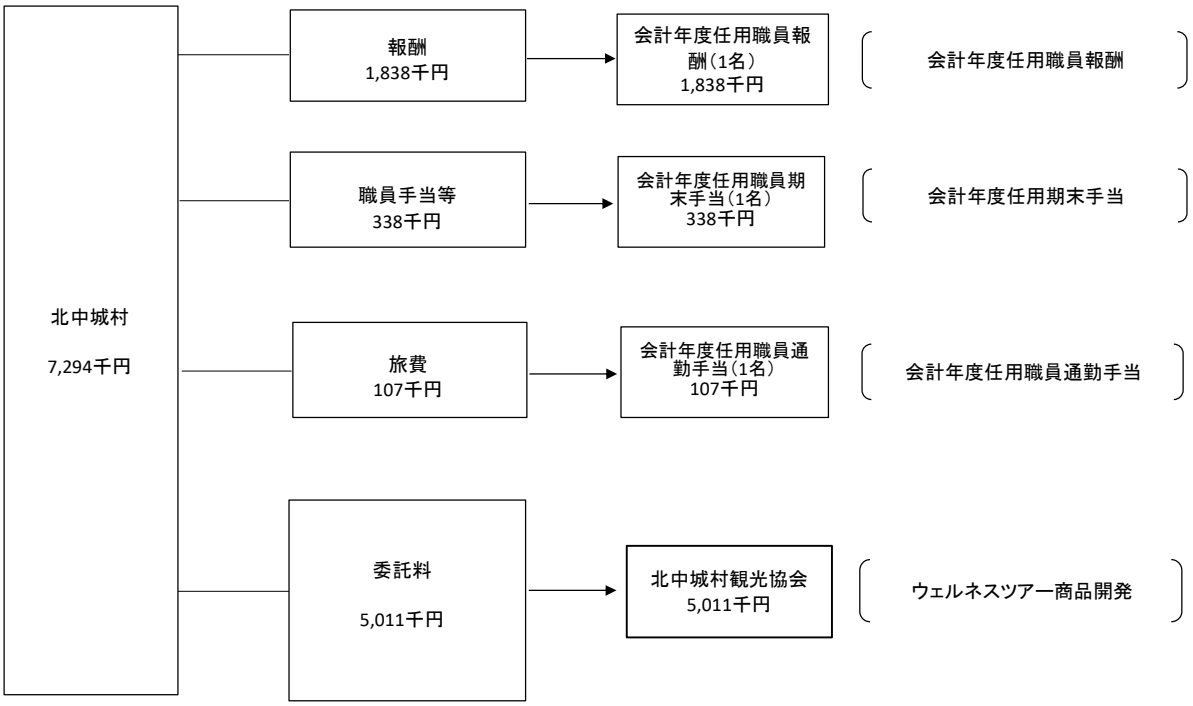
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	（ウェルネスイベント総参加者数） ・荒天時のキャンセル対策として2回のイベントのうち1回を屋内で開催したことで、昨年度と比較して50人増加した。屋外イベントは集客は見込めるが天候に左右されるため開催月を検討する必要がある。 （ウェルネスワークショップ） ・国際ウェルネスツーリズムEXPOでの商談でニーズの高かった農業体験をプログラムとして構成。平日の開催にもかかわらず目標を上回る129人の参加があった。普段土に触れることの少ない方々のニーズの高さが伺えた。同様にインバウンドにも高い需要があることがわかり、多言語での対応が今後必要となってくる。 （国際ウェルネスツーリズムEXPO） ・旅行関係事業者の体験商品への関心が高く11事業者との商談を得た。今後も旅行関係事業者のニーズを把握し、ニーズに即したプログラムの磨き上げを図っていく。	（ウェルネスイベント総参加者数） ・今年度実績では屋外イベントへの参加が158名と多く、参加者ニーズとして屋外でのイベントを求めている傾向が見受けられた。そのため台風シーズンや降雨の多い時期をずらしてイベントスケジュールを決定する。 （ウェルネスワークショップ） ・イベント周知は主にSNSを活用しているが、日本語のみであったことから今後のインバウンド需要の取り込みを想定し、多言語での周知も実施する必要がある。 （国際ウェルネスツーリズムEXPO） ・多言語化された体験プログラムのパンフレットを制作し、インバウンドへの周知を強化する必要がある。

今後の取り組み方針

インバウンド需要の取り込みを目指し、パンフレットの多言語化や多言語に対応できるスタッフの養成を行いつつ、事業者が求める観光ニーズを把握し、プログラムのさらなる磨き上げを図っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,294	7,294	5,835	1,459	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務については村契約規則に則り契約を行っており妥当であると考える。 ○予算規模は、事前に見積り等を踏まえ積算しており、妥当であったと判断する。 ○費目や使途については、完了時に検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑥	北中城村観光振興基本計画策定		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－3－（2）－（エ） 観光客受入体制の整備
担当部課名	企画振興課	事業実施（予定）年度	令和5年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）

事業内容	コロナ禍がもたらした観光トレンドや消費動向に対応した観光施策を展開すべく、この機会を北中城村の新たな観光行政のスタートアップと位置づけ、その指針となる北中城村観光基本計画を策定する。
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額					34,955
	(b) 予算現額					14,300
	(c) 増減額 (b-a)					▲20,655
	(d) 繰越額					0
	A. 計 (b+d)					14,300
B. 執行済額						14,300
うち交付金充当額						11,440
次年度繰越額						0
執行率（%）(B/A)						100.0%

予算の状況の説明	計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
北中城村観光振興基本計画見直しの実施	目　標	（　）	（　）	（　）	（実施）
	実　績				実施
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明	第１次北中城村観光振興基本計画の評価を行いつつ、地域の観光関連事業者や住民参加によるワークショップを開催し、より地域の声を反映した計画づくりが実施できた。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（年度）
北中城村観光振興基本計画の見直し	目　標	（　）	（　）	（　）	（完了）	（　）
	実　績				完了	
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明	当初履行期間内に第2次北中城村観光振興基本計画の見直しが完了した。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	当該計画に関わる観光関連事業者と目指すべき方向性の意思統一を図り、地域全体で観光客誘客を促進していく必要がある。そのためには相互で計画全体の理解度を深めていくことが求められてくる。	第2次北中城村観光振興基本計画の理解度を深めるため、地域のビジョンや基本理念を周知していくことと同時に、年次ごとのKPI達成状況を共有することで、本村が目指すべき観光振興が行える。

今後の取り組み方針

当該計画を進めていく上でキープレイヤーとなる北中城村観光協会を事業受託者とともに計画づくりに参画させたことで、北中城村が目指す観光振興のイメージを共有できたことにより、今後より効果の高い事業展開が期待される。今後の取り組みとしては、村広報誌や観光協会ホームページ、SNS等を活用し、本村が観光施策で目指すビジョンや基本理念を広く周知するとともに、村観光協会を中核として、村内観光関連事業者とのコミュニケーションの場を定期的に設け、コンセンサスを得ていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
14,300	14,300	11,440	2,860	0

北中城村 14,300千円 → 委託料 14,300千円 → オリエンタルコンサルタンツ 14,300千円 （北中城村観光振興基本計画見直し）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務についてはプロポーザルを実施。村契約規則に則り契約を行っており妥当であると考える。 ○予算規模は、事前に見積り等を踏まえ積算しており、妥当であったと判断する。 ○費目や使途については、完了時に検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-①	キャンプ瑞慶覧特定駐留軍用地推進基金事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-（13）-イ 駐留軍用地跡地利用の早期着手に向けた取組の推進
担当部課名	企画振興課	事業実施（予定）年度	平成25～令和5年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-8

事業内容	キャンプ瑞慶覧ロウワープラザ地区の跡地利用を推進するため、基金を活用し公有地の先行取得を行う。
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,710	1,683	2,732	2,375	2,340
	(b) 予算現額	1,144	1,442	2,732	1,421	649
	(c) 増減額 (b-a)	▲566	▲241	0	▲954	▲1,691
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	1,144	1,442	2,732	1,421	649
	B. 執行済額	1,143	1,441	1,547	1,421	648
	うち交付金充当額	915	1,153	1,237	1,136	518
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		99.9%	99.9%	56.6%	100.0%	99.8%

予算の状況の説明：当初予算から減額補正を行った主な要因は、用地取得に関する業務がなかったため、-1,691千円減額した。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
公共用地の取得	目　標	（902㎡）	（1,636㎡）	（425㎡）	（203㎡）
	実　績	900㎡	1,211㎡	222㎡	0㎡
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：買取申出期間を6～7月末まで2か月設け、申出者を募った結果、0件の申出となったため、用地取得ができなかった。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（年度）
全体用地取得率：100%	目　標	（　）	（100%）	（100%）	（100%）	（　）
	実　績		96.1%	98.2%	98.2%	
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：土地取得の進捗状況は、申出がなかったため、10,797㎡（98.2%）から増加なし（目標面積11,000㎡）。

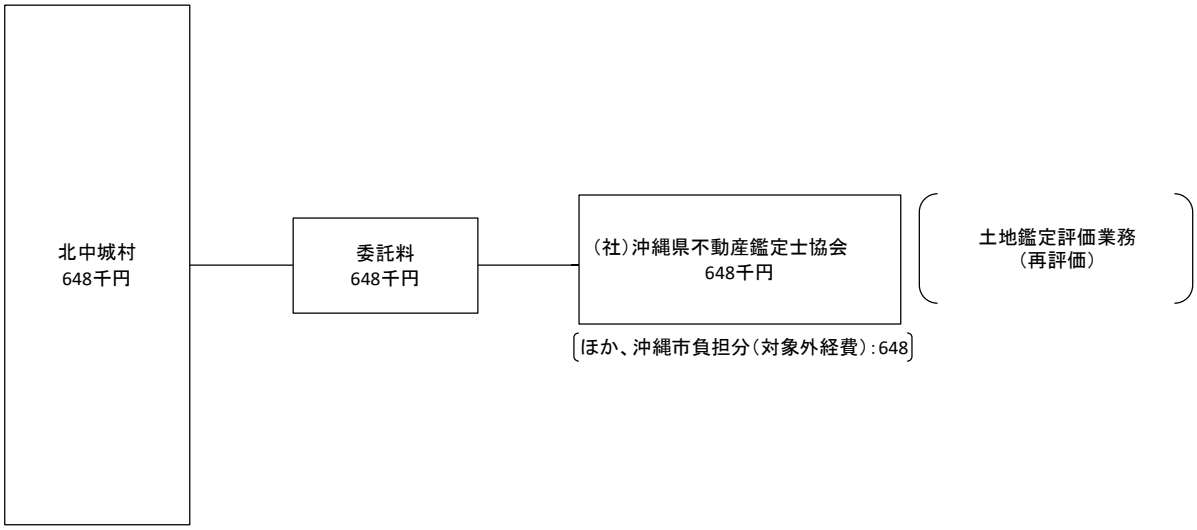
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	買取申出期間を6月～7月末まで2ヶ月設け、申出者を募った結果、申出希望が0件のため、買取協議を行うことができなかった。 申出がなかったことの要因の一つとして、市場価格＞買取価格の差が考えれれる。	・地権者に対し引き続き先行取得の目的、必要性について周知する。

今後の取り組み方針

・本事業は、令和4年度を最終年度としていたが、取得面積が買取目標に達しなかったことから、令和5年度以降も残り203㎡の用地取得に向けて事業を実施し、本事業の活用を検討している地権者への周知強化に取り組む。
・買取協議成立に向けて引き続き村に売却するメリットである税額控除といった優位な点について周知をしていく。
・ロウワー・プラザ地区返還後、先行取得した用地は、公園・緑地としてとして整備していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,296	648	518	130	648



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○地方自治法施行令第167条の2第1項第2号に基づき随意契約を行っており妥当であったと判断する。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正であると判断する。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要であると判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-②	キャンプ瑞慶覧返還地区等跡地利用推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(13)-イ 駐留軍用地跡地利用の早期着手に向けた取組の推進
担当部課名	企画振興課	事業実施（予定）年度	令和3～令和9年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-8

事業内容	キャンプ瑞慶覧ロウワー・プラザ住宅地区等の跡地利用を推進するため、本地区の課題及び対応方針を踏まえた沖縄市・北中城村キャンプ瑞慶覧返還地区等跡地利用整備計画(案)の作成を行う。
効果発現年度	■当年度　■後年度（R6年度以降）
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額			2,706	3,846	12,700
	(b) 予算現額			2,706	3,846	10,313
	(c) 増減額 (b-a)			0	0	-2,387
	(d) 繰越額			0	0	0
	A. 計 (b+d)			2,706	3,846	10,313
	B. 執行済額			2,706	3,180	10,313
	うち交付金充当額			2,164	2,544	8,250
次年度繰越額				0	0	
執行率（%）(B/A)				100.0%	82.7%	100.0%
予算の状況の説明	計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
跡地利用整備計画(案)の検討	目標	（　）	（　）	（　）	（実施）
	実績				実施
	目標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実績				
達成状況説明	跡地利用整備計画（案）の作成に必要となる「土地利用計画」「道路配置計画」「「公園緑地計画」「その他都市施設」の検討を行った。				

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（5年度以降）
跡地利用整備計画(案)の作成	目標	（　）	（　）	（　）	（作成）	（　）
	実績				作成	
【R6年度以降成果目標】本地区における跡地利用の検討に対する地権者や村民等の「肯定的な意見」80%以上	目標	（　）	（　）	（　）	（　）	（80%）
	実績					
進捗状況説明	・当地区の計画条件の整理や関係機関との意見交換等を踏まえ、土地利用の方針を整理することで跡地利用整備計画（案）を作成することができた。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	（跡地利用整備計画（案）の作成） ・道路配置計画案を基に幹線道路の取り付け箇所である県道24号や国道330号の交差点解析を実施したことで取り付け箇所の課題を把握することができた。	・作成した跡地利用整備計画（案）で示した道路配置計画案等の土地利用のイメージ（ゾーニング）について、庁内外と情報共有をはかり、より具体的な計画を作成する必要がある。

今後の取り組み方針

・跡地利用整備計画（案）を基に、庁内の関係課と意見交換を行い、跡地利用整備計画（案）をブラッシュアップする。
・引き続き、関係機関（沖縄防衛局、沖縄県、沖縄県警察署）との意見交換を行い、円滑な跡地利用の実施に向けて取り組む。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
20,625	10,313	8,250	2,063	10,312

北中城村
10,313千円

委託料
10,313千円

株式会社オオバ沖縄支店
10,313千円

（跡地利用整備計画（案）作成業務）

（ほか、沖縄市負担分（交付対象外経費）：10,312千円）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○本業務は、指名型入札方式により事業者を選定しており妥当である。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正であると判断する。 ○費目・使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要であると判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-③	喜舎場住宅地区跡地利用推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(13)-イ 駐留軍用地跡地利用の早期着手に向けた取組の推進
担当部課名	企画振興課	事業実施（予定）年度	平成25～令和5年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-8

事業内容	キャンプ瑞慶覧喜舎場住宅地区の一部返還後の跡地利用に向けて、フルインター化計画を推進しながら、返還予定区域の見直しが認められなかった場合に備えた計画案の作成をする。
効果発現年度	■当年度　■後年度（R6年度）
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額			6,923	6,490	6,820
	(b) 予算現額			3,696	6,490	6,435
	(c) 増減額 (b-a)			▲3,227	0	▲385
	(d) 繰越額			0	0	0
	A. 計 (b+d)			3,696	6,490	6,435
	B. 執行済額			3,673	5,843	6,196
	うち交付金充当額			3,673	4,674	4,956
次年度繰越額				0	0	0
執行率（%）(B/A)				99.4%	90.0%	96.3%

予算の状況の説明：不用額の239千円は、変更契約によるものである。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
交通量推計の実施	目標	（　）	（　）	（　）	（実施）
	実績				実施
整備効果の分析	目標	（　）	（　）	（　）	（実施）
	実績				実施

達成状況説明：・過年度に検討した内容を踏まえ、インターチェンジの機能向上に伴う交通等への影響を整理するため、交通量推計調査と整備効果の分析を行った。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（6年度）
これまでの検討結果を踏まえた報告書の作成	目標	（　）	（　）	（　）	（作成）	（　）
	実績				作成	
【R6成果目標（後年度）】本地区における跡地利用の検討に対する地権者や村民等のアンケート調査の実施「肯定的な評価」80%以上	目標	（　）	（　）	（　）	（　）	（80%）
	実績					

進捗状況説明：・過年度に検討した内容を踏まえ、交通量推計調査と整備効果を分析し、報告書の作成を行った。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・令和4年度に作成した整備計画案を基に、喜舎場スマートインターチェンジのフルインター化等に向けた整備効果の分析を行った。	・返還予定区域のうち、喜舎場SICフル化等区域外の残地活用の検討が必要である。

今後の取り組み方針

・整備計画案のうち、喜舎場SICフル化等区域外の残地活用の検討を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,196	6,196	4,956	1,240	0

北中城村
6,196千円

委託料
6,196千円

日本工営都市空間株式会社沖縄支店
6,196千円

跡地利用検討業務

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○本業務は、指名競争入札により事業者を選定しており、妥当である。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正であると判断する。 ○費目・使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要であると判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-①	雇用サポートセンター事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(11)-ア 雇用機会の確保と多様な人材の活躍促進
担当部課名	企画振興課	事業実施（予定）年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-2

事業内容	雇用機会の創出を図るため、地域に密着した就業支援による雇用サポートセンターを設置する。
効果発現年度	■当年度　□後年度（　　年度）
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,540	2,918	3,083	3,083	2,844
	(b) 予算現額	2,540	2,888	3,083	3,083	2,844
	(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 30	0	0	0
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	2,540	2,888	3,083	3,083	2,844
B. 執行済額		2,497	2,859	3,038	3,008	2,846
うち交付金充当額		1,997	2,286	2,430	2,406	2,277
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		98.3%	99.0%	98.5%	97.6%	100.1%

予算の状況の説明：計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
登録企業の開拓	目　標	（50件）	（50件）	（30件）	（20件）
	実　績	15件	17件	16件	12件
求職者の個別支援	目　標	（40件）	（40件）	（40件）	（30件）
	実　績	12件	10件	26件	4件
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：
・登録企業の開拓については、12件で目標値を下回った。
・求職者の個別支援として、電話や窓口での相談件数は148件あったが、履歴書・職務経歴書の記入指導、面接対策等については、4件にとどまった。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（　年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（　年度）
就業者数	目　標	（　）	（　）	（　）	（3人）	（　）
	実　績				3人	
職業訓練校マッチング人数	目　標	（　）	（　）	（　）	（3人）	（　）
	実　績				0人	
相談件数	目　標	（　）	（　）	（　）	（130件）	（　）
	実　績				140件	

進捗状況説明：
・求職者からの相談件数は148件、最終的なマッチングは6人中3人の就職内定となり、就業者数と相談件数の目標は達成。
・職業訓練校マッチング人数については、相談は20件あったものの、実際に受講につながったものはおらず、目標は達成できなかった。

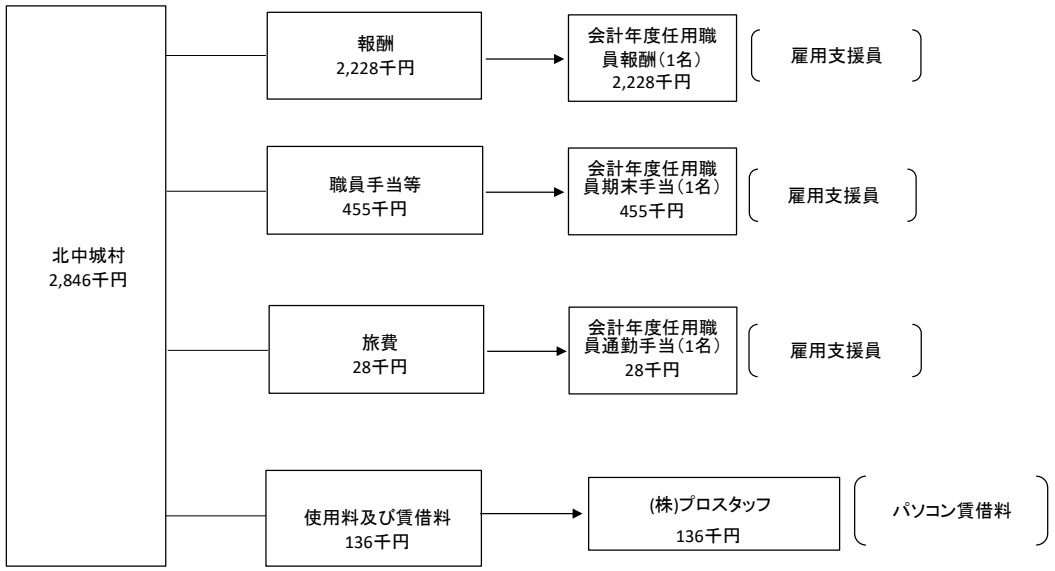
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・広報紙へ求人情報を定期的に掲載を行ったが、紙面の都合で村内事業者や村内に事業所があり、勤務先が村外といった事業所しか掲載することがでなかったため、掲載内容の調整が必要である。 ・求職者は、ハローワークの登録のみ行うケースが多いため、当該雇用サポートセンターの事業内容について、引き続き周知広報の強化やハローワークとの情報共有等の連携が必要である。 ・職業訓練校については、本人や家族の状況により給付金を受けながら受講できないケースなどがあったため、成果目標を達成することができなかった。 ・引き続き、求職者が希望に近い求人を選択できるよう登録企業の開拓を進める必要がある。	・引き続き、企業等に対し、行政側（北中城村・ハローワーク）の雇用者支援策等の周知を強化し、雇用促進に取り組む必要がある。 ・引き続き、マッチング率向上のため幅広く企業開拓を推進し、村広報誌へも求人情報を掲載し、求職者への周知を強化する。 ・事業所の所在地が村内外に関わらず、広報誌へ掲載できるように広報誌担当と調整を行う。 ・職業訓練校の受講につなげるため、個々の状況に対応した情報提供・サポートを行う必要がある。

今後の取り組み方針

・求職者の採用内定のみならず、必要に応じて職業訓練校への紹介等により求職者のスキルアップを図ることで幅広い支援につなげる。
・引き続き、ハローワーク等との情報共有や企業訪問等により、幅広く企業開拓に取り組む。
・企業に対して行政の雇用支援策等の周知に努め、求職者の雇用促進を図り、村内求人情報を広報誌などで周知することで、マッチング率向上に努める。
・窓口にご家族が来た際、本人が直接窓口に来るように促しているが、どうしても本人が来れない場合など、状況に応じて、こちらから訪問することも検討していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,846	2,846	2,277	569	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は、関係規則等に基づき行っており、妥当であると考える。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正であると判断する。 ○費目、使途については、雇用サポート業務に精通した人員を配置しており、目的に即し必要だと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-②	グッジョブ連携推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(11)-ウ 若者の活躍促進
担当部課名	企画振興課	事業実施（予定）年度	平成27～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-2
事業内容	児童生徒の勤労観や職業観の育成を図るため、ジョブシャドウイングや職場体験、出前フォーラム等を実施する。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額	21,712	21,636	22,482	22,482	22,482
	(b) 予算現額	21,712	21,636	22,482	22,482	23,329
	(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	847
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)	21,712	21,636	22,482	22,482	23,329
B. 執行済額		21,377	21,636	22,482	22,482	23,329
うち交付金充当額		17,102	17,308	17,985	17,985	18,663
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		98.5%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

予算の状況の説明
・職場体験の送迎に関する事業計画変更の影響により賃貸料等が増加したため、予算を847千円増額した。
・計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
ジョブシャドウイングの実施（小学校2校）	目　標	（2校）	（2校）	（2校）	（2校）
	実　績	2校	1校	2校	2校
職場体験の実施(中学校1校)	目　標	（1校）	（1校）	（1校）	（1校）
	実　績	1校	0校	1校	1校
キッズJOBクラブの実施	目　標	（実施）	（実施）	（実施）	（実施）
	実　績	実施	実施	実施	実施
職業人講話及びフィールドワークの実施（高校1校）	目　標	（　）	（　）	（　）	（1校）
	実　績				1校
キャリア教育講演会の実施	目　標	（実施）	（実施）	（実施）	（実施）
	実　績	実施	実施	実施	実施

達成状況説明
・小学校2校を対象としたジョブシャドウイングについて、予定通り実施した。
・中学校を対象とした職場体験は予定通り実施した。(生徒数：195人・事業所開拓数：263事業所・受入事業所数：62事業所)
・キッズJOBクラブについて、小学校5年生～中学3年生を対象に予定通り実施した。
・職業人講話及びフィールドワークについて、村内の県立高校を対象に予定通り実施した。
・キャリア教育講演会について、保護者、PTA、教員等を対象に予定通り実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（年度）
就業に対する意識が向上したか（80%以上）を含め、アンケート調査により本事業のあり方を検証を行う。	目　標	（　）	（80%以上）	（80%以上）	（80%以上）	（　）
	実　績		88%	77%	74%	
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明
北中城小学校では事業前が76%だったのに対し、事業後は70%、島袋小学校では、事業前が81%だったのに対し、事業後は87%、北中城中学校では事業前が67%だったのに対し、事業後は65%と、島袋小学校では就業に対する意識が上昇したが、北中城小学校と北中城中学校では、結果として74%となった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・ジョブシャドウイングや職場体験で希望職種の見学や体験ができなかったことや、実際に見学・体験したことで、働くことに対するイメージとのギャップが生じたと考えられる。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で働き方が変わった業種もあり、リモートワークやGIGAスクール構想など社会状況も大きく変化がみられるので、、児童生徒のキャリア形成のため、プログラム内容や更なる質の向上を図る必要がある。	・受入企業の開拓をすすめ、希望職種とマッチングできるように努める。 ・現場で直接関わる担当教員を加えたワーキンググループ会議を発足し、プログラム見直しや効果的な手法の検討を行う。

今後の取り組み方針

・引き続き、これまで培ってきた協力体制を維持し、本事業の継続実施に向け取り組む。
・引き続き、児童生徒の就業意識の向上に努めることで、職業観や勤労観の育成に取り組む。
・これまでの協議会に加え、現場担当者同士のワーキンググループ会議を発足し、児童生徒、保護者、地域に向けた取り組みの発展に取り組む。
・令和6年度は、プロポーザル審査を行い、より良い取り組みができるように努める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
23,329	23,329	18,663	4,666	0

北中城村 23,329千円 → 委託料 23,329千円 → 株式会社ケイオーパートナーズ 23,329千円 → 北中城村グッジョブ連携推進事業

資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○本事業は、地方自治法167条の2第1項第2号のに基づき随意契約を行っており妥当であったと判断する。 ○予算規模は、業者見積を踏まえ設定しており、適正な規模であると判断する。 ○費目、使途については、精算時に検査をしており、目的に即し必要であったと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4－①	営農支援強化事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(7)-ア 沖縄ブランドの確立と生産供給体制の強化
担当部課名	農林水産課	事業実施（予定）年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(6)
事業内容	営農指導員による専門的な助言・指導により農家の生産力向上を図るとともに、安定した農業経営に必要なパイプハウス整備支援を実施する。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）				
実施方法	■直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額	4,414	5,120	11,988	12,082	18,733
	(b) 予算現額	11,726	10,937	4,895	10,403	13,202
	(c) 増減額 (b-a)	7,312	5,817	▲ 7,093	▲ 1,679	▲ 5,531
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	11,726	10,937	4,895	10,403	13,202
	B. 執行済額	11,726	10,471	4,894	10,052	13,371
	うち交付金充当額	9,380	8,377	3,914	8,041	10,697
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		100.0%	95.7%	100.0%	96.6%	101.3%

予算の状況の説明：・パイプハウスの設置は、計画どおり2基設置したが、予定していた規模の縮小により、5,531千円減額した。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
営農指導員の配置	目　標	（　2名　）	（　2名　）	（　2名　）	（　2名　）
	実　績	2名	2名	1.4名	2名
パイプハウス施設の整備補助	目　標	（　2基　）	（　　）	（　2基　）	（　2基　）
	実　績	2基		2基	2基

達成状況説明：
・営農指導員を2名配置し、専門的な指導・助言を行った。
・パイプハウス施設の整備については、計画通り2基の整備を完了した。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（　年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（　年度）
村アンテナショップにおける村内農家の出荷額	目　標	（　　）	（ 3,814千円 ）	（ 4,373千円 ）	（ 4,780千円 ）	（　　）
	実　績		5,639千円	7,651千円	6,019千円	
【参考指標】	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：約80戸の村内農家への巡回指導を行ったが、台風等の影響により前年度より生産量が伸びなかった。年間出荷額が1,632千円減の6,019千円となったものの、目標を達成することができた。

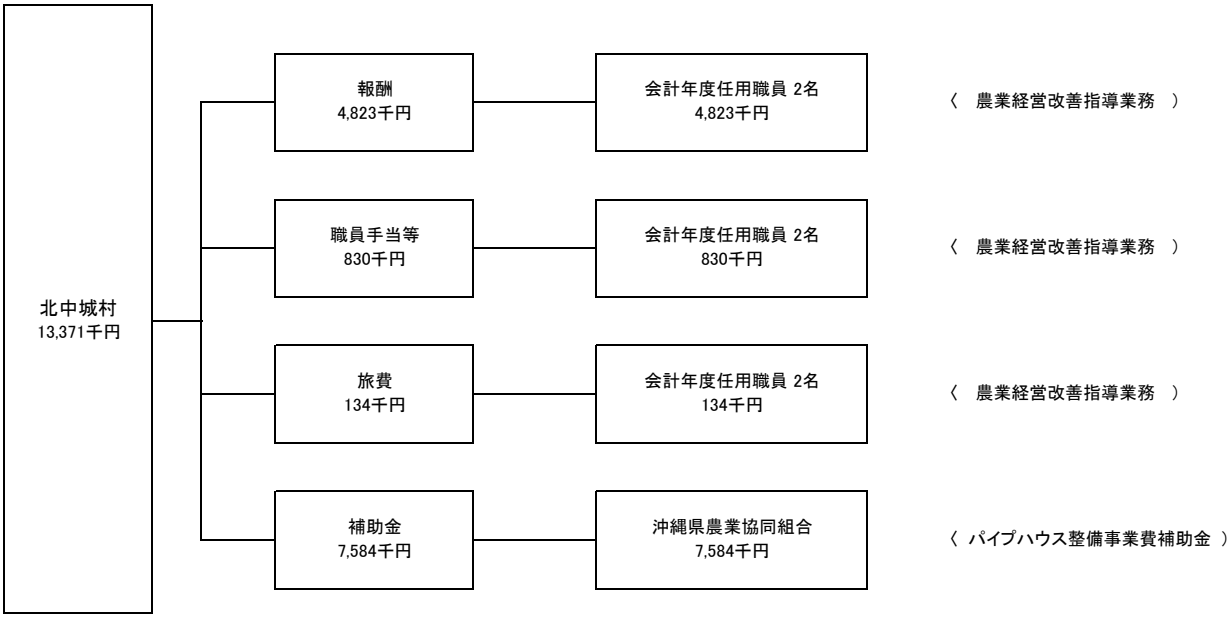
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・営農指導員について、台風等の自然災害があったため、一部で農産物の生育不良、枯死などの被害が生じた。 ・パイプハウス施設整備について、早めの選定を行ったが、台風等の影響により完成が工期間際となった。	・農家への自然災害対応の指導が必要である。 ・パイプハウス施設整備について、イレギュラーな事態を想定し、事業着手時期などの年間スケジュールの見直しが必要である。

今後の取り組み方針

・病害虫防除や農薬適正指導などについて、生産農家からのニーズが恒常的であることから、営農指導員の適正な配置と巡回指導に努め、生産量拡大を支援する。
・パイプハウス施設整備については、従来6月頃から行っている整備希望者選定などの取り組みを年度当初から取りかかり、時間的余裕をもって整備事業を進められるよう改善する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
13,371	13,371	10,697	2,674	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○営農指導員は、資格・経験を備えた者を面接により選考・任用しており、妥当であったと考える。 ○パイプハウス整備予算については、複数業者からの見積による積算及び入札により実施していることから、妥当であったと考えている。 ○受益者との負担関係については、パイプハウス整備に係る費用の一部を交付要綱に則っており、妥当であると考える。 ○費目・使途については、いずれも農産物の生産量拡大に資するものであり、事業目的に即し、真に必要なものであったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-②	農を活かした健康・福祉の里づくりに向けた推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-（7）-キ 魅力と活力ある農山漁村地域の振興と脱炭素社会への貢献
担当部課名	農林水産課	事業実施（予定）年度	平成30～令和7年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-（6）

事業内容	耕作放棄地の利活用に向けて、第一段階循環型農業エリア、第二段階生産拠点エリア及び第三段階医療・福祉健康増進エリア事業者への整備支援。良好な事業展開に向けた協定書の更新を図る。
効果発現年度	■当年度　■後年度（令和7年度）
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額	10,544	11,216	11,993	12,687	12,583
	(b) 予算現額	10,544	11,216	11,993	12,687	12,583
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	10,544	11,216	11,993	12,687	12,583
B. 執行済額		10,538	11,187	11,836	12,595	12,518
うち交付金充当額		8,430	8,949	9,468	10,076	10,014
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）（B/A）		99.9%	99.7%	98.7%	99.3%	99.5%
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。				

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
令和5年度内での民間事業者による第一段階整備（循環型農業・体験農業ゾーン）の整備着手	目　標	（　）	（　）	（　）	（整備着手）
	実　績				整備着手
第二段階及び第三段階整備に関する民間事業者による事業計画とりまとめ	目　標	（　）	（　）	（　）	（事業計画とりまとめ）
	実　績				事業計画とりまとめ実施

達成状況説明
- 民間事業者による第一段階整備に着手した。
- 民間事業者による事業計画（活性化事業計画、農振除外支援）のとりまとめ支援を実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（5年度）
民間事業者による第一段階整備（循環型農業・体験農業ゾーン）整備支援	目　標	（　）	（　）	（　）	（整備支援）	（　）
	実　績				支援実施	
第二段階及び第三段階整備の実現に向けた事業計画の策定	目　標	（　）	（　）	（　）	（計画策定）	（　）
	実　績				未策定	
【R5年度成果目標】耕作放棄地の利活用：3,110㎡	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（3,110㎡）
	実　績					未利活用

進捗状況説明
- 民間事業者による第一段階整備支援を実施した。
- 第二段階及び第三段階整備事業計画策定への支援を実施した。第二段階及び第三段階事業者が合同にて事業を実施したいと要望があった。計画策定には設計費等の費用が出るため、事業用地の取得契約によって事業施設配置を決めたいとあるため令和5年度には策定に至らなかった。
- 耕作放棄地の利活用は、当初計画より遅れているものの、第一段階事業区域を整備中であり、令和6年度に利活用予定である。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	（第二段階及び第三段階整備の実現に向けた事業計画の策定） 用地に関しては事業者が取得することとなるが、賃貸借契約か売買契約かで施設配備計画が異なることから、計画策定に当たっては、事業者の契約形態に応じてた柔軟な対応が求められる。しかし、事業者の用地取得に不測の時間を要したため、設計等に時間を要し、事業期間内に事業計画を策定することができなかった。（令和7年度に策定予定）	用地取得に関しては、事業者と地権者の契約となる。用地取得の目途と事業工程のずれを生じないようにする。

今後の取り組み方針

・地権者調整・法的規制等に関する調整を行う。
・開発許可等に係る関係機関との意見聴取を実施し、タスク管理に取り込む。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
12,518	12,518	10,014	2,504	0

北中城村 12,518千円 → 委託料 12,518千円 → 株式会社オリエンタルコンサルタンツ　沖縄支店 12,518千円

（令和5年度：農を活かした健康・福祉の里づくりに向けた推進事業「第一段階整備事業進捗管理及び第二段階、第三段階整備事業の実現に向けた事業支援業務」）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○地方自治法施行令167条の2第1項第2号に基づき随意契約を行った。本業務の仕様に対応できる要件等を有した事業者を選定しており妥当である。 ○本業務はプロポーザル方式により事業者を選定しており妥当である。 ○費目・使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要であると判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-①	総合英会話指導支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-（3）-ア 国際感覚を身に付ける教育の推進
担当部課名	教育総務課	事業実施（予定）年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-（1）

事業内容

外国語教育の充実と国際性豊かな人材育成を図るため、児童生徒の英会話への興味・関心を高められるよう、村立小中学校に英語を母国語とする外国人や英会話能力の優れた講師を英会話指導員として配置する。

効果発現年度　■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法　■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額	7,275	9,182	9,110	9,119	9,039
	(b) 予算現額	5,222	8,053	7,479	7,901	7,778
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 2,053	▲ 1,129	▲ 1,631	▲ 1,218	▲ 1,261
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	5,222	8,053	7,479	7,901	7,778
B. 執行済額		5,222	8,053	6,624	6,664	7,591
うち交付金充当額		4,177	6,442	5,928	5,331	6,072
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	88.6%	84.3%	97.6%

予算の状況の説明　夏休み等の長期休業中の勤務実績分を補助対象外としたことや勤務実績により、1,261千円の減額を行った。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
英会話指導員の配置（小学校：1人、中学校：1人、幼小兼務：1人）	目　標	（　3人　）	（　3人　）	（　3人　）	（　3人　）
	実　績	3人	3人	3人	3人
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明　年度当初から小中学校すべてに指導員を配置でき、円滑に事業を実施することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（　年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（　年度）
英語検定の受検者数	目　標	（　　）	（　516人　）	（　258人　）	（　249人　）	（　　）
	実　績		224人	189人	193人	
アンケートにより英会話が楽しいと感じる割合80%以上	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　80%以上　）	（　　）
	実　績				94.2%	

進捗状況説明

・過去10年間で延べ英語検定等受検者数が最も低い昨年度よりは数人増えたが目標値を達成する人数ではなく、目標値の77.5%となり、目標を達成することができなかった。
・児童生徒へのアンケート結果において、小学5年生の87.5%、小学6年生の92.4%、中学1・2年生の99.0%が「英語の授業を楽しい」と回答している。また、小学生の99.1%、中学生の99.6%が「外国人と会話してみたい」「英検等を受検してみたい」など英語に関して何らかの意欲が高まると答えており、英会話指導員とのチームティーチングで英語の授業を行うことにより、英語に対するモチベーションが高まり、興味関心が高まっている。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・英語検定に関する周知は行ったが、以前と比較すると基礎知識の定着が低くなっていることで生徒の自己肯定感の低下に繋がっており、受検意欲も低下した結果、英語検定の受験者数が目標に達しなかった。	・英語担当教諭と英会話指導員が、指導方法等についての意見交換や情報交換を行うことが個々の指導力の向上に繋がることから、引き続き、情報交換等の時間を明確に確保するよう促す。 ・外国語教育の方向性や指導方法について、学習指導要領をもとに共通理解を促し、英会話指導員の資質と授業力の向上を図り、興味関心を惹きつける授業展開や英語に親しませる授業により、更に興味・関心の向上に努める。

今後の取り組み方針

・英語担当教諭と英会話指導員の授業の質的向上を目的とした研修会を実施することで、授業改善に取り組み、児童生徒の英語力向上に努める。
・指導主事による英会話指導員の授業参観及び指導助言を通して、英会話指導員の指導力向上を図り、小中で連携した英語教育を推進していく。
・英語担当教諭と英会話指導員の声かけにより英語学習に対する意欲を高め、英語検定、英検Jrの受検者数の更なる増加に取り組む。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
9,601	7,591	6,072	1,519	2,010

北中城村
7,591千円

- 報酬　6,171千円
  - 英会話指導員（北中城小学校・島袋小学校兼幼稚園・北中城中学校　各1名）
  - ほか、夏休み等に係る対象外経費：1,685千円
- 職員手当等　1,113千円
  - 英会話指導員（北中城小学校・島袋小学校兼幼稚園・北中城中学校　各1名）
  - ほか、夏休み等に係る対象外経費：313千円
- 旅費　306千円
  - 英会話指導員（北中城小学校・島袋小学校兼幼稚園・北中城中学校　各1名）
  - ほか、夏休み等に係る対象外経費：12千円

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○指導員は英語を母国語とする外国人を積極的に採用し、面談や学校への聞き取りを通して指導力等を判断しているため妥当であると考える。 ○予算規模については、村規則等に基づき積算しており妥当であったと考える。 ○費用・使途は事業目的に即したものであり適切であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-②	アメリカ教育機関ネットワーク形成事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第４章-5-（3）-ア 国際感覚を身に付ける教育の推進
担当部課名	生涯学習課	事業実施（予定）年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-（1）

事業内容	・米国教育機関との小・中学生向けのWEBシステムを活用した英語講座を行う。
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,634	5,529	5,529	5,557	7,183
	(b) 予算現額	6,031	5,762	5,529	7,183	7,183
	(c) 増減額 (b-a)	397	233	0	1,626	0
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	6,031	5,762	5,529	7,183	7,183
	B. 執行済額	6,244	5,620	5,531	5,986	7,316
	うち交付金充当額	4,695	4,495	4,424	4,788	5,852
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		103.5%	97.5%	100.0%	83.3%	101.9%

予算の状況の説明：米国大学への支払い額に応じた清算払いを行い、178千円の不要額が発生したが、受講生負担分（対象外経費）について当初見込より357千円減額となったため、交付対象事業費が132千円増となった。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
中学生クラス：講座64回（前期32回・後期32回）	目標	（64回）	（64回）	（64回）	（64回）
	実績	64回	64回	64回	64回
小学生クラス：講座64回（前期32回・後期32回）	目標	（64回）	（64回）	（64回）	（64回）
	実績	64回	64回	64回	64回

達成状況説明：
・小学生クラス、中学生クラスともに計画通りに講義が開催され、活動目標を達成することができた。
・児童生徒の英語力が向上するとともに、授業での積極性や自身で考えて意見を述べる力なども養われており、本村の国際性に富む人材育成へ向け児童生徒自身の意識を高めることができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（年度）
定期テストにおける英語習熟度：講座を受けた生徒の平均点80点以上	目標	（）	（前期：全生徒 後期：全生徒）	（前期：全生徒 後期：全生徒）	（前期：全生徒 後期：全生徒）	（）
	実績		前期：24名中14名 後期：22名中16名	前期：24名中19名 後期：22名中18名	前期：76点 後期：73点	
【参考指標】	目標	（）	（）	（）	（）	（）
	実績					

進捗状況説明：
前期：中学生84点、小学生69点、合計平均76点となり、中学生は目標達成したが小学生及び全体では目標達成に届かなかった。
後期：中学生81点、小学生66点、合計平均73点となり、中学生は目標達成したが小学生及び全体では目標達成に届かなかった。
全体：前期後期平均74点となり、目標達成に届かなった。

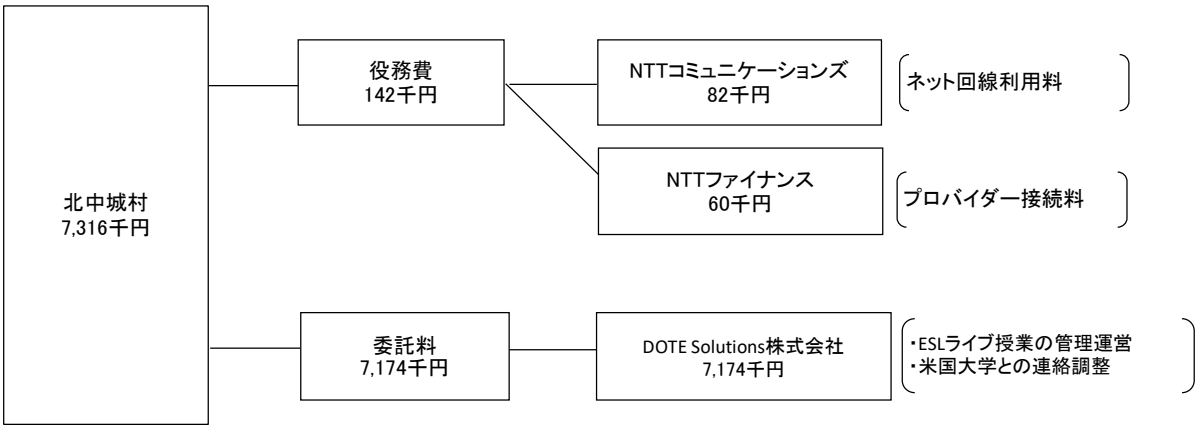
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	<小学生クラス> ・受講者について、小学3年生～6年生までいるが、学年が低い生徒のテスト点数が低い傾向が見受けられる。 <中学生クラス> ・高校受験や部外活動等に参加する理由から、特定の生徒の出席率低下が見受けられる。 小学生クラスにおいて、低学年生徒の離席や授業への集中が持続しないなどがあり、十分な学習成果を得ることができず、テスト点数が伸びなかった。全体の平均点はそれらに付随して伸びず成果目標を達成できなかった。	<小学生クラス> ・休憩のタイミングや本人の英語習熟度の確認、受講対象者の適正や見直しを検討する必要がある。 <中学生クラス> ・生徒が出席しやすい受講日設定や欠席した場合でも課題を受け取り、次週に提出できる仕組みをつくる必要がある。

今後の取り組み方針

<共通>
・グーグルクラスルームを活用して、授業を欠席した生徒も宿題を受け取れるようにする。
<小学生クラス>
・英語習熟度が低い生徒への個別サポートの実施や受講対象者を縮小し事業を実施する。
<中学生クラス>
・グーグルクラスルームを活用して、授業を欠席した生徒も授業内容を把握でき、宿題の提出もシステム上で実行できるようにする。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,727	7,316	5,852	1,464	411



［ほか、受講生負担分（交付対象外経費）：411千円］

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○当該事業者は、地方自治法167条の2第1項第2号に基づき随意契約を行っており妥当といえる。 ○予算規模は事業者より見積もりを取っており適正である。 ○受講生からは受講料を徴収しており、受益者との負担関係は妥当である。 ○費目、用途については、大学へ支払う受講料、人件費、米国との交渉等に係る費用として必要である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-③	海外移住者子弟研修生受入事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-4-(2)-ア 交流基盤としてのウチナーネットワークの継承・発展
担当部課名	総務課	事業実施（予定）年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-7

事業内容	海外と本村を結ぶ懸け橋となる人材育成を図るため、南米3カ国（ペルー、アルゼンチン、ブラジル）から研修生の受入れを実施する。
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）
実施方法	■直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額	3,042	3,005	2,643	2,643	3,025
	(b) 予算現額	2,420	0	0	0	3,025
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 622	▲ 3,005	▲ 2,643	▲ 2,643	0
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	2,420	0	0	0	3,025
	B. 執行済額	2,384	0	0	0	2,882
	うち交付金充当額	1,906	0	0	0	2,305
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		98.5%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	95.3%

予算の状況の説明：・不用額143千円については、文化研修の科目数及び日本語研修の時間数減に伴う謝礼報酬の202千円の残、海外子弟研修生受入に伴う旅費101千円の増、消耗品及び役務費の効率的な執行に努めたことによる42千円の残によるものである。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
海外子弟研修生受入人数	目標	（　）	（　）	（　）	（3 人）
	実績				3 人
研修報告会	目標	（　）	（　）	（　）	（1回）
	実績				1回

達成状況説明：・海外移住者子弟研修生について、南米3カ国の村人会と連携を図り、計画通り3名を受け入れた。研修を通じてホームステイや日本語研修、伝統文化研修により沖縄の文化・習慣を体験することができた。
※令和2年度～令和4年度については、新型コロナウイルス感染症の影響により事業中止となっていた。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（年度）
受け入れた研修生が、沖縄の文化や歴史により興味を持ったか（80%）を含め、アンケートで本事業のあり方を検証する。	目標	（　）	（　）	（　）	（80 %）	（　）
	実績				100%	
	目標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実績					

進捗状況説明：研修生に研修先の歴史等に興味を持ったか等のアンケートをした結果、興味を持ったとの回答が100%となり、成果目標を達成することができた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・南米3カ国の村人会と研修生の来日前から連携を取り、研修（日本語や三線等の文化研修）をスムーズに行えるよう研修生に事前学習を依頼した。 ・研修生によって日本語の習熟度に差があり、受入家庭や研修講師等の関係者との意思疎通が難しい面があったことが課題である。	・日本語学習や文化研修の事前学習をした上で来日しているが、研修生によっては能力に差があるため、事前学習を行うよう引き続き各国村人会へ通知していく。 ・研修の充実度を上げるため、研修の意義を理解の上で研修に臨むことができるよう引き続き村人会と連携をとる必要がある。 ・受入家庭の負担軽減を図るため、要望･意見を取り入れやすい環境を整備する。

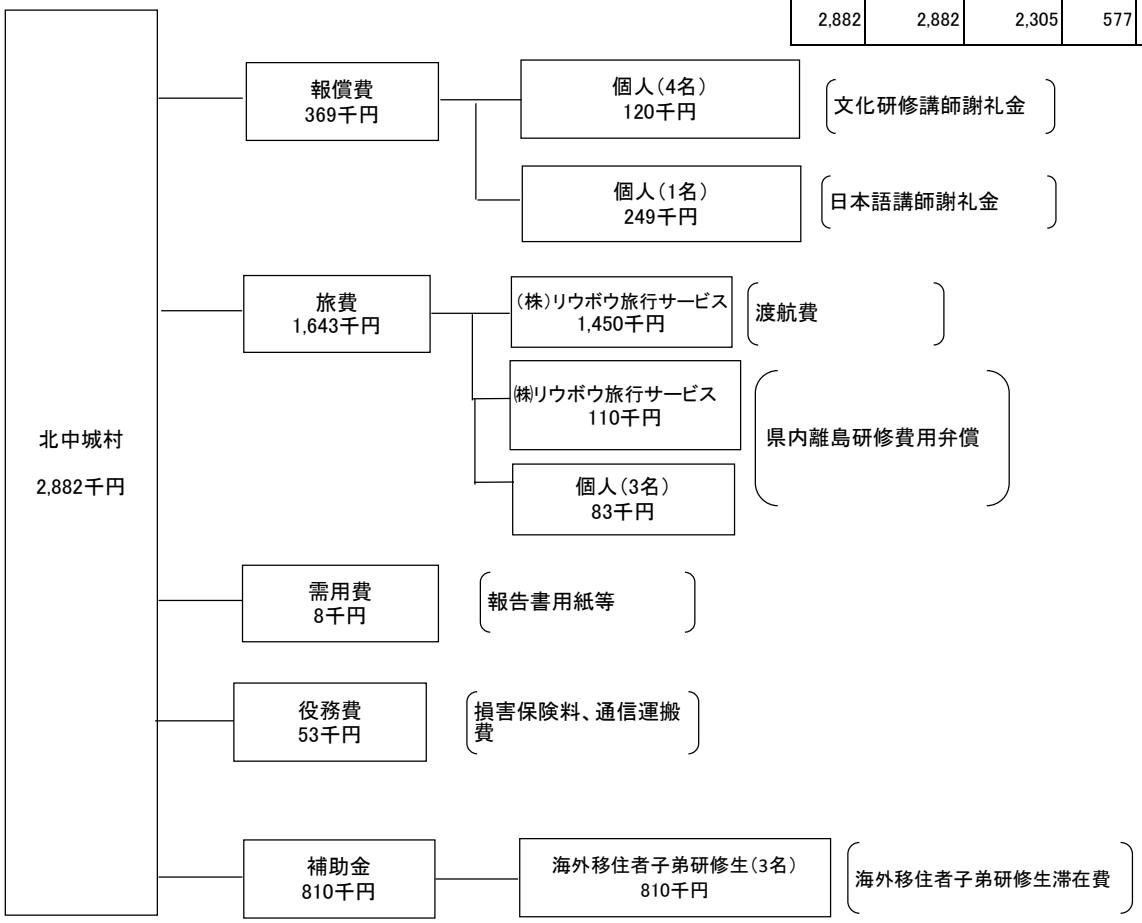
今後の取り組み方針

・研修がより充実したものとなるよう日本語や文化研修の基礎的な能力を習得させるよう各国村人会へ依頼する。

・本事業の周知を図るため前回の事業実施時（令和元年度）より広報への掲載回数を増やしている。村民の目に触れやすい広報掲載を行うことで本事業の周知が図れていると思うので次年度以降も引き続き行っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,882	2,882	2,305	577	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○研修生について、村及び各村人会で面接等により選抜しており、妥当であったと判断する。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○研修生に対し、研修に必要な費用（滞在費・旅費等）を補助対象としており、負担関係は妥当であったと考える。 ○使途について、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6－①	歴史まちづくり計画策定事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－1－(5)－イ 沖縄の歴史と景観に配慮した千年遊休のまちづくり
担当部課名	生涯学習課	事業実施（予定）年度	令和4～令和5年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(3)

事業内容	本村の歴史風致資産を核にしたまちづくりを推進するため、歴史まちづくり計画を策定する。
効果発現年度	■当年度　■後年度（令和6年度）
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
予算の状況	(a) 当初予算額	7,091	8,101			
	(b) 予算現額	6,465	8,101			
	(c) 増減額 (b-a)	▲626	0			
	(d) 繰越額	0	0			
	A. 計 (b+d)	6,465	8,101			
B. 執行済額		6,464	7,488			
うち交付金充当額		5,171	5,990			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		100.0%	92.4%			

予算の状況の説明：執行残は、変更契約による減583千円、会議開催回数の減（29千円）に伴うものである。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
歴史まちづくり計画策定委員会の開催	目　標	（3回）	（　）	（　）	（　）
	実　績	3回			
歴史まちづくり計画策定協議会の開催	目　標	（3回）	（　）	（　）	（　）
	実　績	2回			
文化財保護審議会の開催	目　標	（1回）	（　）	（　）	（　）
	実　績	0回			
関係省庁との協議	目　標	（4回）	（　）	（　）	（　）
	実　績	4回			

達成状況説明：
・関係省庁との協議を踏まえつつ計画策定委員会にて計画素案を作成し、計画策定協議会で検討を行った。
・文化財保護審議会における意見聴取は作業の進捗状況から開催を見送った。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（年度）	R5年度	R6年度	R7年度	目標値（R7年度）
歴史まちづくり計画書（案）の作成	目　標	（　）	（実施）	（　）	（　）	（　）
	実　績		実施			
【R6成果目標】住民アンケート：策定した計画について、歴史情緒あふれるまちづくりが期待できると答えた割合（80%以上）	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（80%以上）
	実　績					

進捗状況説明：歴史まちづくり計画書（案）を作成した。

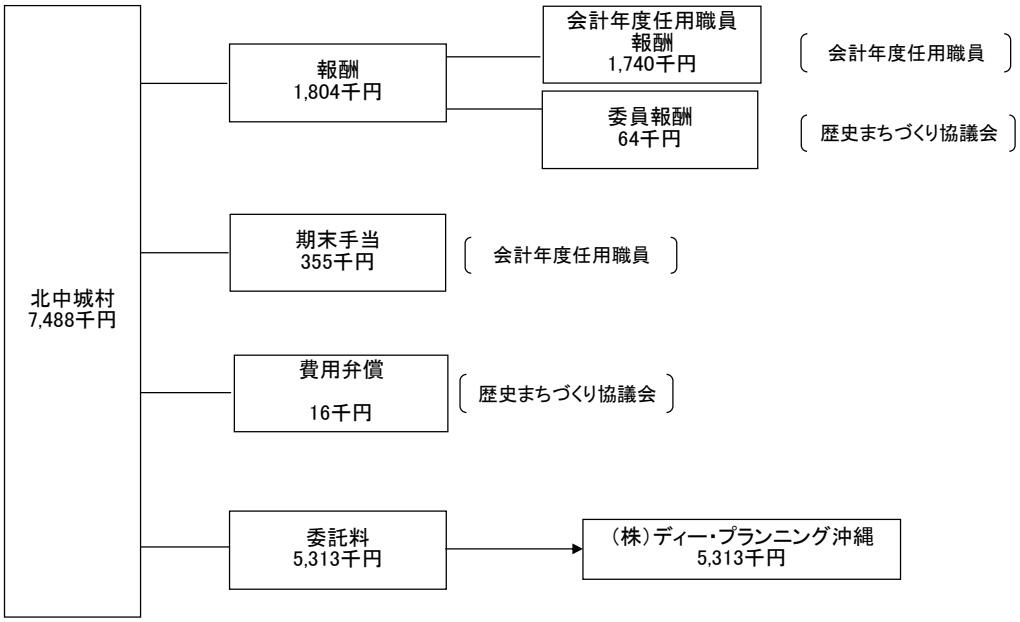
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・成果目標である計画書（案）の作成は概ね達成した。 ・国との事前協議において、学術的根拠の明確化が一部困難な状況にあり、精査に時間を要するため事業期間を1年間延長する事態となった。	・今計画（案）の修正作業において、記述方法の詳細な検討（学術的根拠の落とし込み等）が必要である。 ・文化財保護審議会等の専門的知見を取り入れ計画書を洗練させる。

今後の取り組み方針

計画書（案）を、国の認定に耐えうる計画書とするため、文化財保護審議会等の専門的指導を仰ぎながら学術的根拠の精査に取り組む。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,488	7,488	5,990	1,498	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者とは地方自治法施行令167条の2第1項第6号により随意契約を締結しており妥当であったと考えている。 ○予算規模は適正であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており目的に即し、必要なものであった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6-②	米軍統治下の北中城村実態調査事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－１－（4）－ア 沖縄文化の継承・発展・普及
担当部課名	生涯学習課	事業実施（予定）年度	令和4年度～令和8年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－３－（３）

事業内容	米国統治下における本村の歴史的経過（集落復興、村行政の歩み、教育、産業、軍用地施設の移設など）を明らかにするため、各種調査を実施する。
効果発現年度	■当年度　■後年度（R9年度）
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
予算の状況	(a) 当初予算額	6,037	10,609			
	(b) 予算現額	2,935	7,060			
	(c) 増減額 (b-a)	▲3,102	▲3,549			
	(d) 繰越額	0	0			
	A. 計 (b+d)	2,935	7,060			
B. 執行済額		2,933	7,022			
うち交付金充当額		2,346	5,617			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		99.9%	99.5%			

予算の状況の説明
・専門職員1名を配置できなかったため、補正にて3,549千円減額した。
・執行残38千円は、人件費・委託料の執行残である。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
村関連資料の整理	目　標	（　実施　）	（　実施　）	（　）	（　）
	実　績	実施	実施		
戦後集落地図の作成	目　標	（　作成　）	（　作成　）	（　）	（　）
	実　績	未作成	作成		
追加の聞き取り調査の実施	目　標	（　実施　）	（　実施　）	（　）	（　）
	実　績	未実施	未実施		

達成状況説明
・村関連資料の整理として、村役場書庫保管の行政文書の収集・整理・目録の作成を行った。
・専門職員1名を配置できなかったため、追加の聞き取り調査は実施することができなかった。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（R9年度）
村関連資料のデータ化	目　標	（　）	（　）	（　4件　）	（　）	（　）
	実　績			4件		
戦後集落地図作成	目　標	（　）	（　）	（　13字　）	（　）	（　）
	実　績			13字		
【参考指標】R9年度成果目標：利用者アンケート：村の歴史に対する理解が深まった：80%以上	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　80%以上　）
	実　績					

進捗状況説明
村関連資料のデータ化及び戦後集落地図作成については、いずれも計画通り目標を達成することができた。

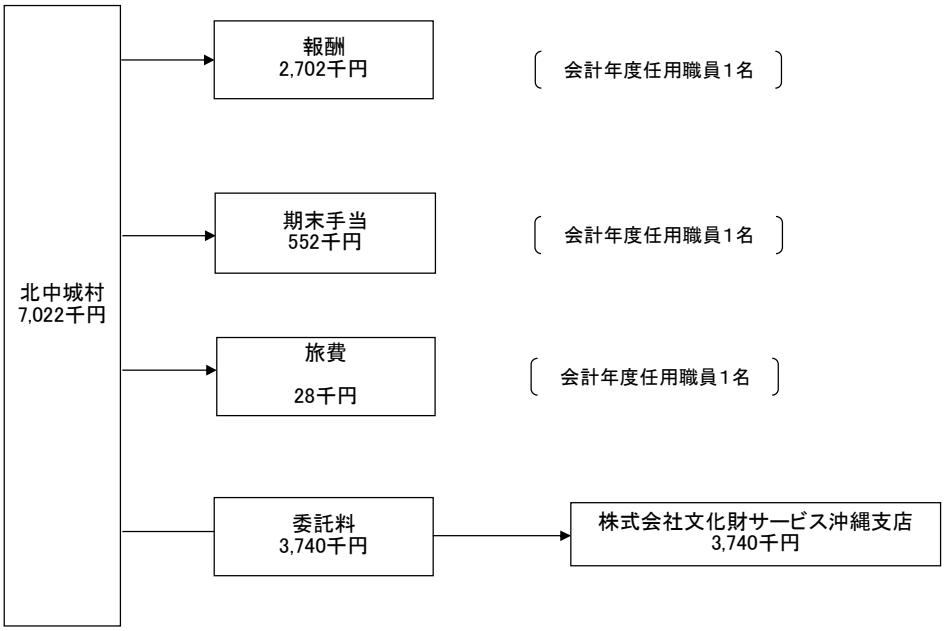
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・村関連資料のデータ化については、村役場書庫保管の行政文書（4課分）を対象に概ね目標を達成することができた。 ・戦後集落地図については、業者委託により校正作業量等を軽減することができ、13字すべてを図面化することができた。 ・冊子作成を進めるにあたり、掲載資料や典拠に偏りが生じないよう留意が必要である。	・様々な視点から冊子をまとめあげるため、村役場保管文書に加えて住民所有・保管の資料についても調査・収集を実施する。

今後の取り組み方針

・多角的・多面的な視点に立った内容の冊子とするため、項目・構成を想定しながら対象範囲に偏りのない調査・資料収集に努める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,022	7,022	5,617	1,405	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者とは指名競争入札により契約を締結しており妥当であったと考えている。 ○予算規模は適正であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており目的に即し、必要なものであった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7-①	特別支援教育支援員配置事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第４章-5-（2）-エ 時代の変化に対応する魅力ある学校づくりの推進
担当部課名	教育総務課	事業実施（予定）年度	平成25～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-（1）

事業内容	障害等による特別な支援を要する児童生徒について、学校生活や学習上の困難の改善を図るため、村立幼稚園、小学校、中学校に特別支援教育支援員を配置する。
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額	30,758	42,151	44,627	48,070	48,451
	(b) 予算現額	26,223	39,331	40,265	42,801	42,815
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 4,535	▲ 2,820	▲ 4,362	▲ 5,269	▲ 5,636
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	26,223	39,331	40,265	42,801	42,815
B. 執行済額		26,223	39,331	39,965	42,040	43,287
うち交付金充当額		20,978	31,464	31,971	33,631	34,629
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	99.3%	98.2%	101.1%

予算の状況の説明：欠員分や夏休み等の長期休業中の勤務実績分を補助対象外としたことや勤務実績により、5,636千円の減額を行った。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
特別支援教育支援員の配置	目標	小学校：10人 （中学校：4人） 幼稚園：4人	小学校：10人 （中学校：4人） 幼稚園：4人	小学校：11人 （中学校：4人） 幼稚園：4人	小学校：11人 （中学校：4人） 幼稚園：4人
	実績	小学校：10人 中学校：4人 幼稚園：4人	小学校：11人 中学校：4人 幼稚園：4人	小学校：11人 中学校：4人 幼稚園：4人	小学校：11人 中学校：4人 幼稚園：4人
	目標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実績				

達成状況説明：年度当初から欠員が生じており、また、途中退職や産休育休により欠員が生じたが、年度途中で若干名補うことができたことから、概ね円滑に事業を実施することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（年度）
支援員に対する満足度（80%以上）を含め、対象となる児童生徒の保護者へのアンケート調査により、本事業のニーズ・課題の把握を行う	目標	（　）	（80%以上）	（80%以上）	（80%以上）	（　）
	実績		93.7%	93.1%	90.7%	
	目標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実績					

進捗状況説明：年度末（３月）に、保護者89名に対してアンケート調査を行った結果、保護者の支援員に対する満足度は90.7%であった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・目標値に1名足りなかったが、当初の目標値をほぼ満たす支援員を配置し、きめ細かな支援を行ったことで、保護者アンケートで「支援員に対する満足度」は90.7%となった。 ・保護者へのアンケートで「支援員の支援により子どもに変化があった」との回答が83.9%いることから、個々に応じた支援ができ、学校生活や学習上の困難の改善が図られている。 ・一方で、保護者や本人のニーズや個々の支援内容が複雑化しており、「情報共有が欲しい・どういった支援を受けているのか知りたい・年に1回の面談だけではわからない」という回答があったことから、必要に応じて複数回の面談などによる保護者との情報共有や連携など体制の充実が、引き続き課題である。	・支援を要する幼児児童生徒の人数が年々増加しており、保護者からも「人員がもう少し充実してほしい」という要望もあるが、支援員の数も限られているため、更なる効率的な活用に努める。 ・個々の支援内容の複雑化に対応し、対象児童等が安心して学校生活を送れるよう、児童生徒の現状把握を行い、学級担任等や保護者及び関係機関が連携することで、個々に適した支援を行える体制を構築する。 ・引き続き、保護者の多種多様なニーズに対応するため、具体的な関わり方の理解を深めたり、個々の特性や多様な障がいなどに対する支援方法について知識を共有することで、支援員ごとの支援の偏りや差をなくし、支援に一貫性を持たせ、支援の質の向上を図る。

今後の取り組み方針

・教育委員会主催での研修会を実施し、障がいに対する特性を学び、支援員の資質向上に努めた。引き続き、更なる質の向上を図る。
・学級担任等が作成する「個別の教育支援と指導計画」を共有及び活用し、今後も、個々に適した支援体制を強化し支援の充実を図る。
・学校内や学校間において、支援員同士の情報共有の場を確保することで支援方法のスキルアップを図り人材育成に取り組む。
・引き続き、三者面談や授業参観時などに保護者と支援員が積極的に情報共有できる機会を設ける。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
45,448	43,287	34,629	8,658	2,161

北中城村
43,287千円

- 報酬　34,604千円
  - 特別支援教育支援員（北中城小学校7名・島袋小学校4名・北中城中学校4名・北中城幼稚園4名）
  - ほか、夏休み等に係る対象外経費：1,825千円
- 職員手当等　8,022千円
  - 特別支援教育支援員（北中城小学校7名・島袋小学校4名・北中城中学校4名・北中城幼稚園4名）
  - ほか、夏休み等に係る対象外経費：337千円
- 旅費　662千円
  - 特別支援教育支援員（北中城小学校7名・島袋小学校4名・北中城中学校4名・北中城幼稚園4名）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員は、面接を経て、経験や業務に対する意欲がある者を採用しており、妥当であると判断する。 ○予算規模については、村規則等に基づき積算しており妥当であったと判断する。 ○児童生徒が不在の長期休業期間等は対象外経費としており、費目や使途は事業目的に即したものであると判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7-②	学習支援員配置事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-（2）-ア 確かな学力を身につける学校教育の充実
担当部課名	教育総務課	事業実施（予定）年度	平成27～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-（1）

事業内容	学習の遅れがちな児童生徒に対し基礎的・基本的知識や技能の習得に向けた支援を行うため、村立小中学校に学習支援員を配置する。
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,410	7,313	7,789	7,906	7,860
	(b) 予算現額	4,695	7,105	6,490	5,400	7,860
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 715	▲ 208	▲ 1,299	▲ 2,506	0
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	4,695	7,105	6,490	5,400	7,860
	B. 執行済額	4,695	7,105	6,293	5,179	7,432
	うち交付金充当額	3,756	5,684	5,034	4,142	5,945
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率（%）(B/A)	100.0%	100.0%	97.0%	95.9%	94.6%
	予算の状況の説明	勤務実績により不用額が428千円となったが、概ね適正な予算執行に務めた。				

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
学習支援員の配置	目　標	（小学校：2人 中学校：1人）	（小学校：2人 中学校：1人）	（小学校：2人 中学校：1人）	（小学校：2人 中学校：1人）
	実　績	小学校：2人 中学校：1人	小学校：2人 中学校：1人	小学校：2人 中学校：1人	小学校：2人 中学校：1人
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明	年度当初から小中学校すべてに学習支援員を配置でき、円滑に事業を実施することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（年度）
沖縄県学力到達度調査における平均正答率30%未満の割合の減少	目　標	（　）	（小5算数 12.0%以下 中2数学 32.2%以下）	（小5算数 18.6%以下 中2数学 28.5%以下）	（小5算数 19.6%以下 中2数学 32.3%以下）	（　）
	実　績		小5算数：16.2% 中2数学：41.2%	小5算数：20.1% 中2数学：51.0%	小5算数：14.0% 中2数学：52.5%	
沖縄県学力到達度調査における無答率の割合の減少	目　標	（　）	（小5算数 4.5%以下 中2数学 11.1%以下）	（小5算数 7.0%以下 中2数学 8.2%以下）	（小5算数 8.2%以下 中2数学 8.7%以下）	（　）
	実　績		小5算数：6.3% 中2数学：9.6%	小5算数：11.1% 中2数学：18.5%	小5算数：6.5% 中2数学：16.2%	

進捗状況説明	・小学校においては、平均正答数30%未満・無答率ともに目標値を達成できた。 ・中学校においては、ともに達成できなかったが、無答率の県平均との差（△3.3）が昨年度よりも下回っており、一定の成果は得られている。 ・目標が一部未達成ではあるが、学習の遅れがちな児童生徒へ声かけや支援を行い、教師とのチームティーチングにより、丁寧に学習支援を実施した。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・県学力到達度調査（算数、数学）で、中学校では、達成できなかったものの、小学校では、成果目標値を達成することができ、一定の成果が得られていると考える。昨年と同様に、長文問題や記述式領域に課題があることに加え、図形領域も課題となっていることが、達成できなかった一因として考えられる。 ・中学校では、昨年度以上に正答率30%未満の割合が高くなっており、全体的に成績が落ち込んでいる。小学校での基礎学力の低下も要因の一つと考えられる。成績下位層の底上げし中位層に押し上げることが、引き続いての課題である。	・引き続き、成績下位層の底上げのため、継続して追調査及び形成評価を行い、支援対象の児童生徒のつまずきや支援内容の定着状況を把握し、育ちを検証していくことが有用と考えられる。 ・これまで以上に研修や教材研究の充実を図り、授業改善を行うことで、「確かな学力」の向上を図る必要がある。 ・学習支援員のより良い人材確保のため、公募に当たっては、教員免許所持者や退職教員などへ教育委員会から直接、声かけを行うなど、積極的な人材確保に努める。

今後の取り組み方針

・引き続き、全ての村立小中学校に学習支援員の配置を行い、学力の向上を図っていく。
・学力向上のために、教員と学習支援員のチームティーチングによる授業力向上及び連携強化等の研修を行い、より質の高い授業が展開できるようにする。
・放課後の補修や休み時間での補修などを実施し、個々のつまづきに丁寧に支援を行う個別支援を強化することで、成績下位層の底上げを図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
8,813	7,432	5,945	1,487	1,381

北中城村
7,432千円

- 報酬　5,985千円
  - 学習支援員（北中城小学校・島袋小学校・北中城中学校　各1名）
  - ほか、夏休み等に係る対象外経費：1,146千円
- 職員手当等　1,371千円
  - 学習支援員（北中城小学校・島袋小学校・北中城中学校　各1名）
  - ほか、夏休み等に係る対象外経費：235千円
- 旅費　76千円
  - 学習支援員（北中城小学校・島袋小学校・北中城中学校　各1名）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員は、教員免許を有している者を面接を経て採用しており、妥当であったと判断する。 ○予算規模については、村規則等に則り積算しており、妥当であったと考える。 ○児童生徒が不在の長期休業期間等は対象外経費としており、費目及び使途は事業目的に即したものであると判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7-③	児童生徒の県外派遣旅費等支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(1)-ウ 公平な教育機会の確保と学習環境の充実
担当部課名	教育総務課	事業実施（予定）年度	平成29～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容

県外大会への参加を全児童生徒に等しく機会を与え、児童生徒の視野を広げるため、学校教育の一環として派遣されるものに対し、派遣費用を補助する。

効果発現年度　■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法　□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,440	2,440	3,450	3,450	3,450
	(b) 予算現額	4,511	350	3,450	1,605	620
	(c) 増減額 (b-a)	2,071	▲ 2,090	0	▲ 1,845	▲ 2,830
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	4,511	350	3,450	1,605	620
B. 執行済額		4,511	332	1,786	707	304
うち交付金充当額		3,609	265	1,428	565	243
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		100.0%	94.9%	51.8%	44.0%	49.0%

予算の状況の説明　個人種目や少人数の団体種目であった、派遣者数が当初の見込み数を下回ったため、当初予算から2,830千円減額し、更に2～3月の大会において派遣が期待されていた団体の派遣が無かったため、316千円の不用額が生じた。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
県外への派遣団体数	目　標	（6団体）	（8団体）	（8団体）	（8団体）
	実　績	2団体	7団体	4団体	5団体
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明　目標には届かなかったが、九州大会4団体、全国大会１団体、延べ２４人の児童・生徒を県代表として派遣することの支援ができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（年度）
派遣された児童生徒の視野が広がったか保護者に対するアンケート	目　標	（80%以上）	（80%以上）	（80%以上）	（80%以上）	（　）
	実　績		92.7%	94.3%	91.3%	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明
・大会派遣後の児童生徒の様子について、91.3%の保護者（23人中21人）が、「視野が広がった」「積極的になった」など意欲が高まっていると回答し、目標を達成することができた。
・学習意欲についても、「あまり変わらない・やる事はやる子」と答える保護者がいるものの、86.4%が「向上している」と答えており、部活動での県外大会への参加が学習面においてもモチベーションの向上に寄与していることが確認でき、児童生徒にとって効果が高い事業であると考える。
・その他自主性の高まりや精神面の成長、目標を実現するために努力をするなどの報告があった。

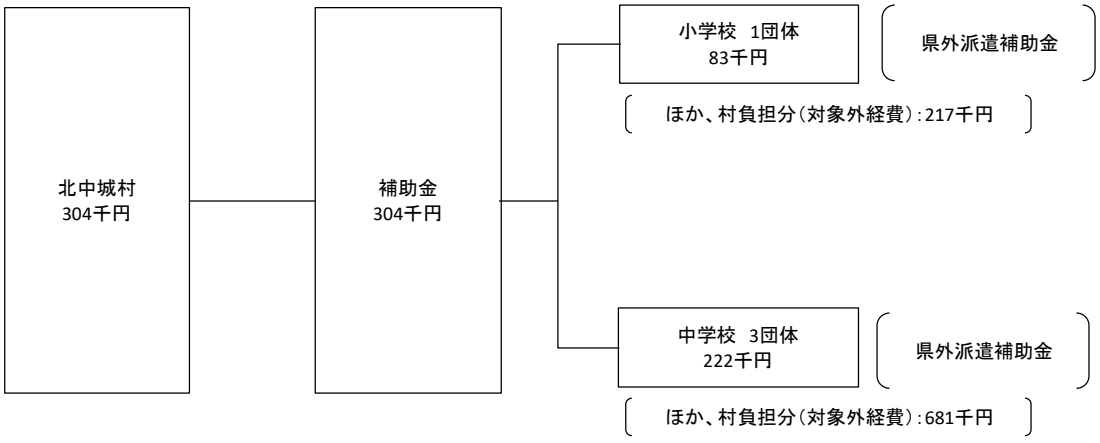
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・学校と連携して補助対象となり得る児童・生徒への周知活動に努めたことで対象者全員へ支援することができた。 ・県外へ派遣される際の航空運賃を補助することにより、県外の大会に参加し他の都道府県の児童生徒との競争・交流で刺激をうけ、視野を広げるという目標が達成されたと考えられる。 ・「県外派遣という経験をして生活面でも精神的にも成長した子供達をうれしく思います。支援事業で多くの支援がありとてもありがたい。」とのコメントがあった。	・本制度の周知と学校と密に連携をとることでうまく事業を推進できているので、引き続き連携を取りながら迅速に給付できるよう実施する。 ・引き続き、補助を行うことで、児童生徒の意欲向上、健全育成及び人材育成につながることが期待される。

今後の取り組み方針

・北中城村の児童生徒が県外派遣により精神的に成長することで、人材育成に寄与するもであり、引き続き、補助対象の児童・生徒への支援に取り組む。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,202	304	243	61	898



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助先への交付決定は、小中学生の県外等派遣に関する補助金交付規程に則り行っており、妥当である。 ○予算規模は村の規定に基づき適正な規模であった。 ○補助金交付規程に基づく補助以外の費用は、受益者が負担するため、負担関係は妥当である。 ○費目・使途については、実績報告等で確認・精査しており、事業目的に即した必要なものであると判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	７－④	小中学生県外派遣支援（社会教育関連）事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-（1）-ウ 公平な教育機会の確保と学習環境の充実
担当部課名	生涯学習課	事業実施（予定）年度	平成29～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-（1）

事業内容	村に在住する子ども達に対して等しく県外大会に参加する機会を与えることで子ども達の視野を広げるため、村・県を代表して派遣されるスポーツ・文化活動に対して航空運賃を補助する。
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算の状況	(a) 当初予算額	950	950	950	950	950
	(b) 予算現額	616	9	100	950	950
	(c) 増減額 (b-a)	▲334	▲941	▲850	0	0
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	616	9	100	950	950
B. 執行済額		616	9	100	454	444
うち交付金充当額		493	7	80	363	355
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	47.8%	46.7%

予算の状況の説明：・506千円の不用額は、派遣者数が目標を下回った為。また、九州地区への派遣が多かった。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
・県外大会への派遣者数	目　標	（50人）	（50人）	（50人）	（50人）
	実　績	1人	11人	47人	43人
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：・活動目標は下回ったものの３１件の申請のうち、４３人の派遣を行なっており概ね目標は達成されている。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（年度）
派遣された児童の視野が広がったか（80%以上）を含め、保護者に対するアンケート調査により、本事業のあり方について検証する。	目　標	（　）	（80%）	（80%）	（80%）	（　）
	実　績		100%	85%	86%	
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：・大会派遣後のアンケート質問1について、保護者43人中37人、86%が、とても有意義であるとの回答、設問2の派遣後の様子については複数回答ですが、「視野が広がった」「目標を高く持つようになった」との回答が、それぞれ、69.8%、72.1%となっていることから目標は達成されている。

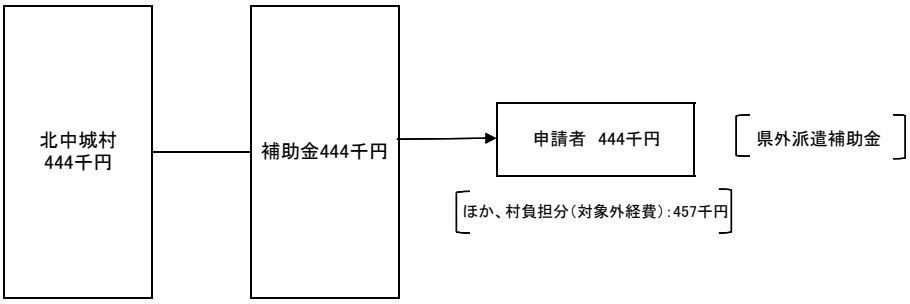
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	（派遣費補助について） ・派遣費の補助については37人の保護者がとても有意義であった。6人の保護者が有意義で会ったと報告しており、今後も継続して実施すべきものと考える。 （派遣後の変化） ・派遣後の子どもたちの状況において「物事に対する視野が広がった」「何事にも積極的になった」「目標を高く持つようになった」との回答がほとんどで、参加者の成長が見られる。	・利用者からの具体的な感想や意見、今後の要望等をもっと反映できるようなアンケート様式の変更が必要。

今後の取り組み方針

・ホームページ等の広報活動による周知を行うとともに、2月に行なわれる北中城村教育の日のセレモニーにおいても紹介する。また、学校・スポーツ少年団・クラブチーム等との情報共有による事業周知を図る。保護者が多く集まる機会に本事業を周知する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
901	444	355	89	457



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助先は、要綱等に則り交付決定を行っており、妥当であると考える。 ○予算規模は適正であると考える。 ○航空運賃の上限を超える額やその他の費用は受益者にて負担しており、負担割合は妥当である。 ○費目・使途については、実績報告で確認・精査しており、事業目的に即した必要なものであると判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村

令和５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	8-①	屋宜原地区避難道路整備事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(4)-イ 大規模災害等に備えた強くしなやかな県土づくりの推進
担当部課名	建設課	事業実施（予定）年度	令和4年～令和6年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-10-(3)

事業内容	北中城村の大型宿泊施設等へのアクセス道路である仲順屋宜原線について災害時の村民や観光客の安全を確保し、災害に強い避難道路を築造するための予備設計として、道路線形検討、道路付帯構造物の検討を実施し、道路整備を検討する。
効果発現年度	□当年度　■後年度（令和9年度）
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
予算の状況	(a) 当初予算額	4,000	21,164			
	(b) 予算現額	4,000	21,164			
	(c) 増減額 (b-a)	0	0			
	(d) 繰越額	0	0			
	A. 計 (b+d)	4,000	21,164			
B. 執行済額		3,850	20,504			
うち交付金充当額		3,080	16,403			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		96.3%	96.9%			

予算の状況の説明：不用額660千円は、入札残及び数量増減による変更契約によるものである。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
実測図を用いた道路改良範囲の検討	目標	（　）	（L=700m 検討）	（　）	（　）
	実績		L=700m 完了		
	目標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実績				

達成状況説明：現地測量による実測図により道路改良範囲の検討を実施し、完了した。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（9年度）
実測図を用いた道路改良範囲の決定	目標	（　）	（　）	（決定）	（　）	（　）
	実績			決定		
【R9成果目標】住民アンケート：整備した避難道路について、安全安心に利用できると答えた割合(80%以上)	目標	（　）	（　）	（　）	（　）	（80%以上）
	実績					

進捗状況説明：実測図を用いた道路改良範囲の検討を実施し、改良範囲について決定した。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	R4年度の地形図利用での道路線形の検討からR5年度の実測図（現況測量）での検討をすることで、R6年度の実施設計へ引き継ぐことができた。しかしながら、避難路として、現在の区間は700mであったが、北中城村役場側に接続されるL=240m区間においても同様に災害に強い道路の検討が必要となったことから、次年度は、L=240mの区間において同様の実測図を用いた道路改良範囲の決定を行い、道路整備を推進していく。	令和6年度においても、地権者、自治会への説明も継続して実施し、より利用しやすい道路整備を検討していく必要がある。

今後の取り組み方針

令和6年度においては、令和5年度同様に地権者及び自治会への説明を実施し、より利用しやすい道路整備を検討していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
20,504	20,504	16,403	4,101	0

北中城村 20,504千円 → 委託料 20,504千円 → 株式会社 大洋土木コンサルタント 20,504千円 （村道仲順屋宜原線予備設計業務）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	